

◆調査レポート：

ダイキンオーキッドレディスゴルフトーナメント開催が沖縄にもたらす効果
～ゴルフツーリズム客の県内消費額は一般観光客の 1.4 倍、第 38 回大会の経済効果は 31 億円～

【 共同調査について 】

りゅうぎん総合研究所と一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー（以下、OCVB）はダイキンオーキッドレディスゴルフトーナメントが沖縄へもたらす効果について共同調査を行いました。

OCVB にて大会来場者へのアンケート調査を実施し、りゅうぎん総合研究所にてその集計結果を分析し、経済波及効果を算出したうえで調査レポートとしてまとめました。両社は今後とも適宜連携しながらスポーツツーリズム推進のため、調査を実施してまいります。

【 要 旨 】

- ・ ダイキンオーキッドレディスゴルフトーナメントは 1988 年の第 1 回大会から 2025 年の第 38 回まで継続開催されている県内唯一の定例プロトーナメントである。同大会は、沖縄と本土をつなぐ架け橋の役割と同時に、地元アマチュアゴルファーへの機会提供、ゴルフ文化の定着支援等を提供し続け、様々な分野で沖縄の発展に寄与してきた。
- ・ 本県におけるゴルフの位置付けとして、観光閑散期である冬季がベストシーズンであること、また「観る」と「する」両方の性質を兼ね備えたスポーツであり、ゴルフプレー代など高い観光消費が期待されることなどから、スポーツツーリズムを推進する上で大きな存在感を示している。
- ・ 来場者アンケートの結果からは、ゴルフツーリズム客は一般観光客に比べて消費額が大きく、また長期滞在の割合が高い傾向がみられ、沖縄観光の課題である「年を通した需要の平準化」や「量から質への転換」など、沖縄経済への大きな一助となる可能性が示された。
- ・ 第 38 回ダイキンオーキッドのギャラリー数は 14,540 人（延べ人数）となり、大会開催により沖縄へもたらされた経済波及効果は 31 億 2,900 万円（波及効果倍率は 1.36 倍）と試算された。
- ・ ゴルフは試合を観戦する『観る』スポーツであると同時に、観客として来沖した人々がラウンドを楽しむ『する』スポーツにも繋がっており、大会前後に行われる消費活動により生みだされる経済的効果は、県内で実施される他のスポーツイベントと比較しても大きいことが分かった。
- ・ 第 38 回大会では、誘客促進や情報発信強化、アンケート調査など新たな取り組みが行われた。発展を続ける同大会において、今後更なる経済効果の拡大を目指すための取り組みとして、①SNS を活用した情報発信強化、②会場内の環境整備の検討が必要である。
- ・ 同大会が沖縄にもたらす経済的・社会的効果は大きい。また同時に沖縄の観光課題である「スポーツアイランド沖縄の推進」、「観光需要平準化」、「量から質への転換」にも寄与する重要なイベントである。同大会が大会テーマである「沖縄とともに限りなき前進」を実現し、さらに持続的に発展していくことを期待したい。

目 次

1. はじめに.....	1
2. ダイキンオーキッドについて.....	1
(1) 大会概要.....	1
(2) ギャラリー数の推移(延べ人数).....	2
3. 来場者へのアンケート調査結果.....	5
(1) 共通の質問(県内・県外居住者).....	5
(2) 県外居住者の回答.....	11
(3) アンケート結果の総括.....	20
4. 第38回ダイキンオーキッドの経済波及効果.....	21
(1) 産業連関表について.....	21
(2) 経済波及効果算出の流れ.....	22
(3) トーナメント参加者・観客数.....	22
(4) ダイキンオーキッドの関連支出額(直接支出額).....	23
(5) 沖縄県内におけるダイキンオーキッドの経済効果.....	23
(6) 産業別の経済効果.....	24
5. おわりに.....	26
6. 参考資料.....	28
(1) 県内居住者のアンケート結果.....	28
(2) 経済効果を求める式(投入モデル).....	29

1. はじめに

ダイキンオーキッドレディスゴルフトーナメント(以下、ダイキンオーキッド)は、沖縄で開催される唯一の定例プロトーナメントであり、県内外から 1 万人以上が来場する同大会は、沖縄県が推進する「スポーツツーリズム」の代表的な例として挙げられよう。

スポーツツーリズムとは、「スポーツの参加や観戦を目的とした地域の訪問や、地域資源とスポーツを掛け合わせた観光を楽しむ」¹ことであり、観戦・参加・合宿・大会出場など多様な形態を含む。スポーツツーリズムの推進は、観光客の滞在期間の長期化や消費拡大に加え、地域の雇用創出や施設整備による波及効果も大きい。

ダイキンオーキッドをはじめ NAHA マラソンやツール・ド・おきなわなど、沖縄ならではの気候や自然、文化とスポーツを融合させた観光体験は、国内外の観光客にとって大きな魅力となっている。加えて毎年開催されるプロ野球や J リーグのキャンプのように、沖縄にとってスポーツは多くのスポーツファンを誘致する重要な観光資源となっている。そのなかで特にゴルフについては、観光の閑散期となる冬季がベストシーズンであること、ゴルフが「観る」と「する」両方の性質を兼ね備えたスポーツであり、ゴルフプレー代など高い観光消費が期待されることなどから、スポーツツーリズムのひとつとして大きな存在感を示している。

本レポートは昨年に続く第 2 回調査となる。前回調査では、同大会がコロナ禍の 1 年を除き 37 年という長期間にわたって継続開催されており、沖縄の魅力を全国へ発信する機会となっていることに加え、経済面だけでなく、支援金や若年層の育成などを通じて社会的な貢献度も高いことが明らかとなった。

第 38 回大会となった本年は、沖縄観光コンベンションビューロー(以下 OCVB)が沖縄県より受託した「スポーツ観光戦略的誘客促進事業」の一環として、OCVB が来場者へアンケートを実施した。その結果をもとに当社において来場者の属性や滞在日数、各種消費額などのデータを集計し、その特徴を分析した。また同大会の経済効果を算出し、それらの結果を踏まえたうえで、スポーツツーリズムにおけるゴルフの優位性を確認し、ダイキンオーキッドのさらなる発展に向け考察した。

2. ダイキンオーキッドについて

(1) 大会概要

第 38 回ダイキンオーキッドレディスゴルフトーナメントは、2025 年 3 月 6 日から 9 日にかけて沖縄県南城市の琉球ゴルフ倶楽部(6,610 ヤード、パー72)で開催された(図表1)。大会では 19 歳(試合当時)という若さで 3 日目まで首位を守った菅楓華選手が注目されたが、最終日に前年覇者の岩井千怜選手が逆転優勝を果たし、大会史上 2 人目となる連覇を達成した。

沖縄県勢で決勝ラウンドへ進んだのは上原彩子選手(那覇市)と吉崎マーナ選手(アマチュア、17 歳)の二人で、結果は上原選手が 50 位、吉崎選手がアマチュアながら 12 位タイと好成績を収めた。

¹ 観光庁「スポーツツーリズムの推進」

図表1：第 38 回ダイキンオーキッドの概要

- ・ 主 催：ダイキン工業株式会社、琉球放送株式会社
- ・ 公 認：一般社団法人日本女子プロゴルフ協会
- ・ 開催日程：
 - 2025 年 3 月 6 日(木) ～ 7 日(金) 本大会予選ラウンド
 - 2025 年 3 月 8 日(土) ～ 9 日(日) 本大会決勝ラウンド
 - ※本大会に先立ってアマチュアゴルフ選手権やプロアマ大会も実施
- ・ 開催コース：琉球ゴルフ倶楽部
- ・ 賞金総額：1 億 2,000 万円

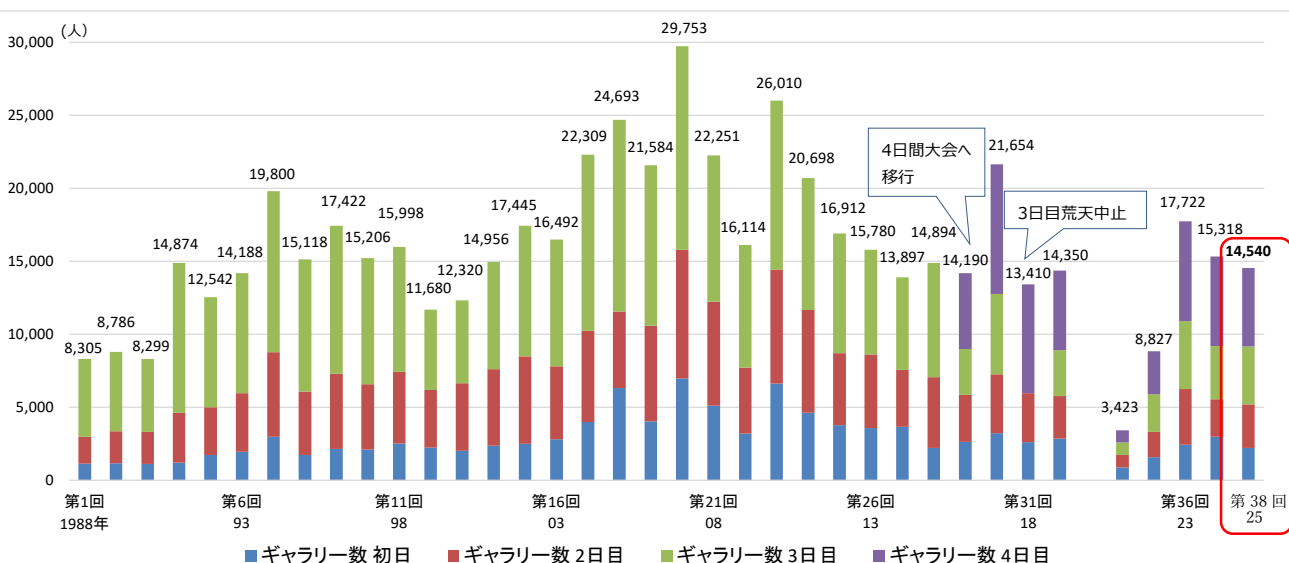
(出所)ダイキン工業株式会社 大会 HP よりりゅうぎん総研作成

(2) ギャラリー数の推移(延べ人数)

本年の第 38 回大会のギャラリー数は 14,540 人で前年比 5.1%減となった(図表2)。前年に比べ大会期間中の降水量が多く、特に初日は雨や強い風が吹く悪天候となったことなどが影響したとみられる(図表3)。

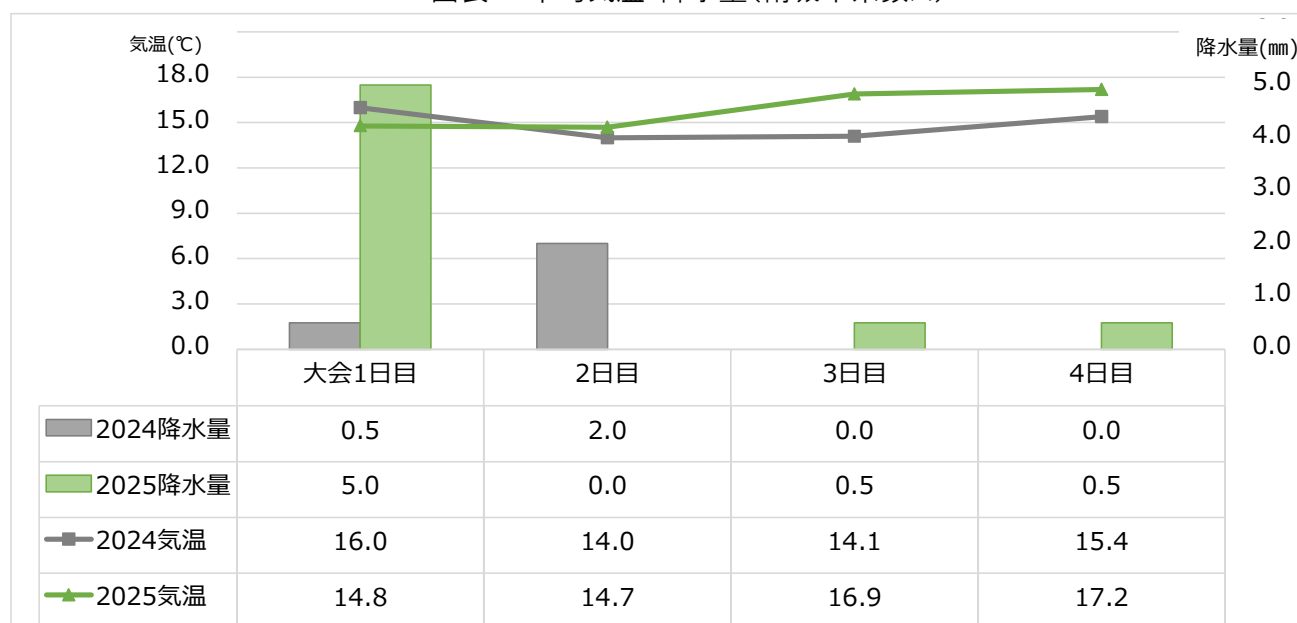
直近のギャラリー数の推移をみると、行動制限が解除された直後の 2023 年は 1 万 7 千人を超える入場者数を記録したものの、その後は 2 年連続で減少し、コロナ禍の 3 年間を除いた平均 16,557 人を下回った。また、過去最高を記録した 2007 年と比較すると半数以下となっており、天候など不可抗力の部分もあるが、ギャラリー誘致のための取り組みや安定的なギャラリー数の確保が課題の一つとして挙げられよう。

図表2：ギャラリー数の推移(延べ人数)



(出所)ダイキンオーキッド事務局データよりりゅうぎん総研作成

図表3 平均気温・降水量(南城市系数※)



(出所)気象庁 ※沖縄県の全気象観測地点のうち、大会会場に最も近い「南城市系数」の気象データを採用した

(3) 第38回大会の新たな取り組み

ダイキンオーキッドでは、これまでギャラリー誘致と会場に活気をもたらす演出強化に向け様々な取り組みが実施されており、今年の第38回大会においても、大会主催者による新たな取り組みがみられた(図表4)。

まず、誘客促進に向けた取り組みとして、南城市の特産品詰め合わせがセットとなった「南城市名産品付き前売り券」や、県出身女子プロゴルファーの解説を聞きながら一緒に観戦する「解説付きツアーチケット」が新たに販売された。沖縄観光の一環として県産品の推奨やスポーツファンへ向けた付加価値の商品化など、創意工夫がみられた。

次に、情報発信の一環としてSNS(InstagramやX)アカウントが開設され、大会内容の共有や選手のインタビューなどが発信された。また、会場入口には人気選手の等身大パネルが設置され、多くの来場者が写真撮影をする様子がみられるなど、フォトエリアとして会場を盛り上げた。

これらの取り組みに加え、今回は来場者を対象に会場内でアンケート調査が行われた。アンケートは、沖縄県からの委託に基づきOCVBが実施したものであり、ゴルフツーリズムの実態把握および沖縄観光への寄与度の把握を目的としたものである。

次章では、当研究所が分析したアンケート結果を確認し、沖縄観光におけるゴルフツーリズムの位置付けについて考察する。

図表4 第38回大会における新たな取り組み

第38回大会の新たな取り組み	目的・効果
チケットの多様化・高付加価値化	付加価値の商品化による誘客促進
SNSアカウント開設	情報発信力強化
フォトブース設置	会場内の賑わい創出
来場者へのアンケート調査	来場者の属性およびゴルフツーリズムの実態把握

(出所)りゅうぎん総合研究所

写真:第 38 回ダイキンオーキッド会場内の様子

▼会場内に設置された SNS 広報ポスター



▼フォトブースで写真撮影する来場者



▼OCVB のアンケートブース



▼アンケートに回答する来場者



▼南城市の特産品を購入する来場者



▼地元飲食店の出店



(出所) 写真は全てりゅうぎん総合研究所撮影

3. 来場者へのアンケート調査結果

本章では、大会会場で実施した来場者へのアンケート調査の結果について確認する。アンケート概要は図表5の通りである。

図表5:アンケート概要

- ・調査名：「スポーツツーリズム実態調査」
- ・実施機関：一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー
- ・調査期間：3月8日(土)～9日(日)の2日間
- ・調査場所：大会会場内ギャラリープラザ(ショップや飲食店のコーナー)にて実施
- ・調査方法：来場者へ無作為に声掛け
- ・回答方法：来場者がスマートフォンにてQRコードを読み込み、WEB上で回答を入力
- ・回答数：376
- ・質問内容：
 - 共通事項：5問 (例)性別、年代、職業など
 - 居住地が沖縄の場合：さらに7問 (例)来場人数や同行者、会場での消費額など
 - 居住地が県外の場合：さらに17問 (例)旅行目的や滞在日数、各種消費額など

(出所)りゅうぎん総合研究所

(1) 共通の質問(県内・県外居住者)

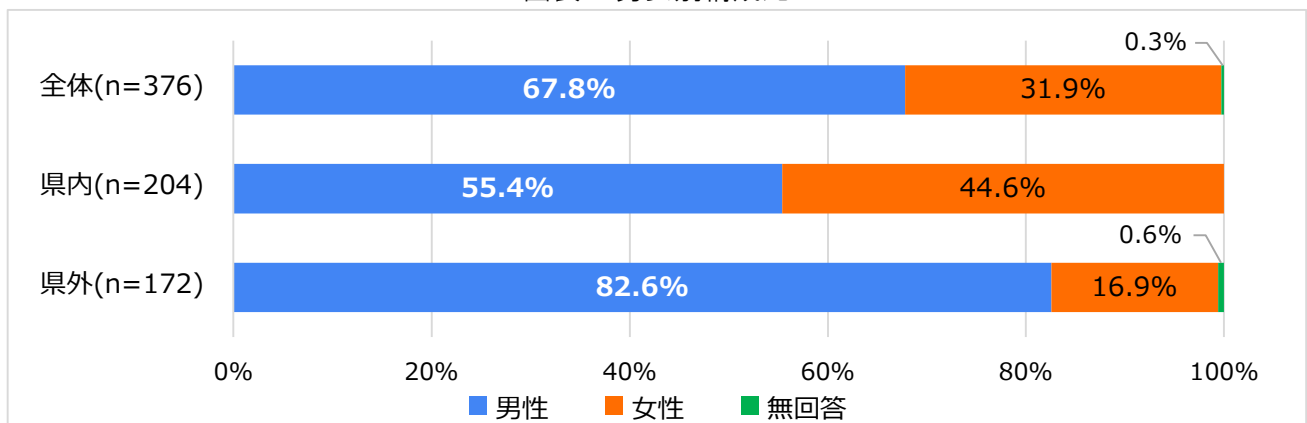
まず県内・県外居住者への共通の質問に対する回答を確認する。

① 性別

来場者の男女別の構成比を確認する(図表6)。男女比率は全体で男性 67.8%、女性 31.9%となった。一般的に男性のスポーツとしてのイメージが強いゴルフだが、来場者は女性が3割を超えており、ゴルフが男女を問わず人気のスポーツであることがわかる。

また回答を県内に限ると女性は44.6%と半数に迫った。地元開催で気軽にアクセスできる野外イベントであることや、県出身の女性プロも多く身近なスポーツとして認知されていることなどが、県内女性来場者の比率を引き上げた一因であると推測される。一方、県外をみると女性の割合が16.9%と低いことから、県外女性をターゲットにした来場誘致が、今後の来場者数の引き上げに貢献することが期待される。

図表6:男女別構成比



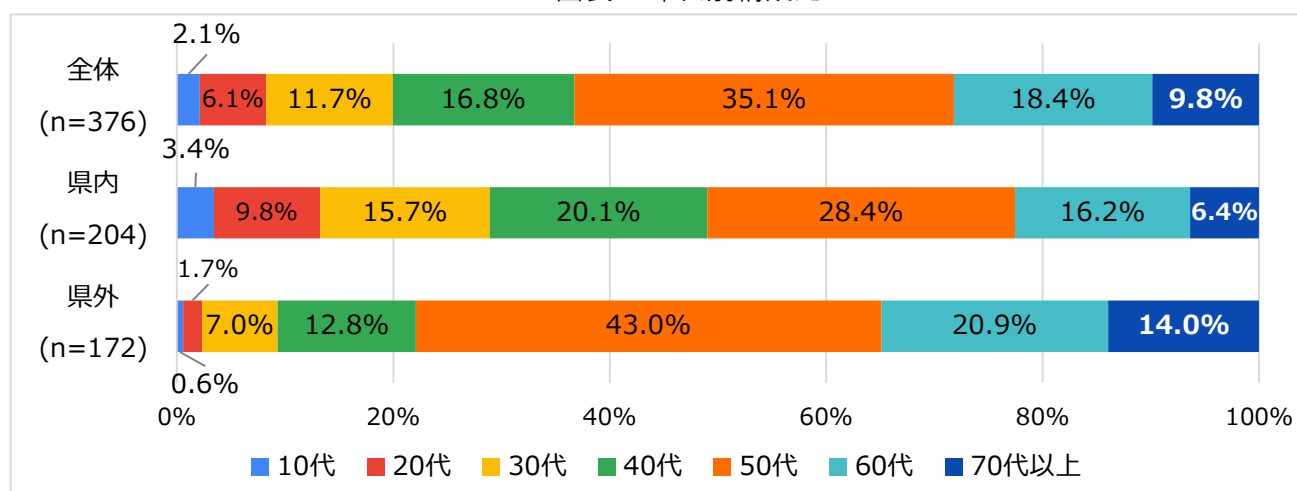
(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

② 年代

年代別の構成比を確認する(図表7)。全体では50代が35.1%と最多となり、50代以上が合計で63.3%と半数を超えた。県内外の内訳をみると、県内は50代以上の合計が約51%とほぼ半数であるのに対し、県外は77.9%と8割に迫った。また40代までの年代ではそれぞれ県内の比率が上回っているが、50代以上は全ての年代で県外の比率が上回った。

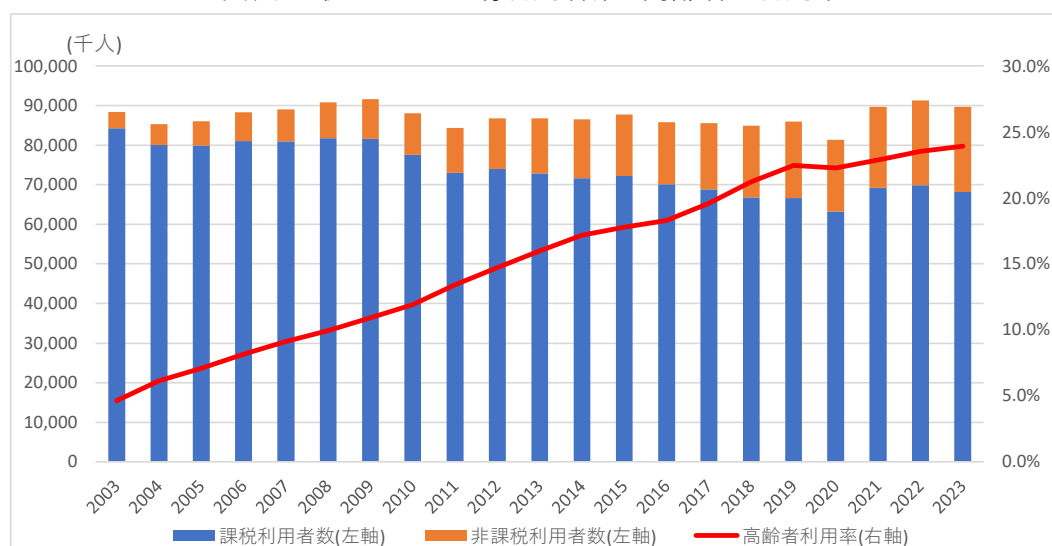
県外からの来場は渡航費や宿泊費などの費用を要するため、比較的金銭面に余裕のある年齢層が多くなったとみられる。加えてゴルフは「生涯スポーツ」としての人気も高く、競技人口やファンの高齢化も背景にあると推測される(図表8)。

図表7:年代別構成比



(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

図表8:最近のゴルフ場利用者数と高齢者の利用率

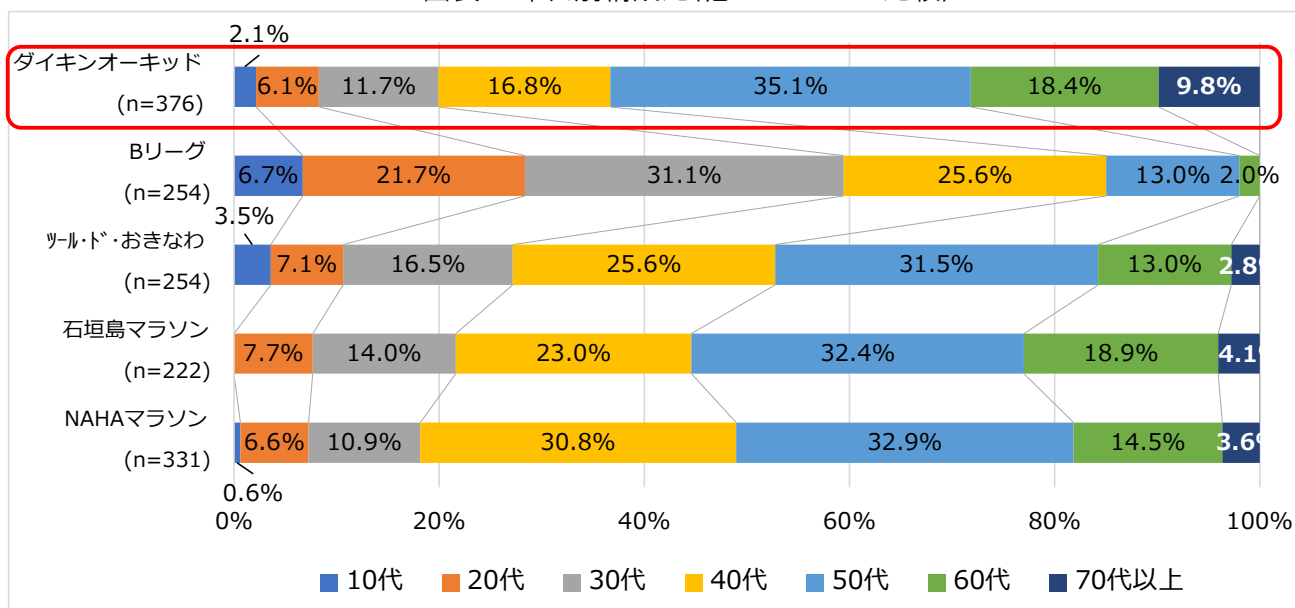


(出所)ゴルフ市場活性化委員会「2025年度のJGFにおけるセミナー資料」より当社作成

ダイキンオーキッドの来場者の年代別構成比を他のスポーツと比較する(図表9)。特徴として、「観る」スポーツである「Bリーグ」は10~30代の若い世代が比較的多いが、同大会は「する」スポーツである「ツール・ド・おきなわ」「石垣島マラソン」「NAHAマラソン」と類似の構成比と

なった。ただ、「する」スポーツの中でも、50代以上の年代の構成比がやや高くなっている点の特徴として挙げられる。

図表9：年代別構成比(他スポーツとの比較)



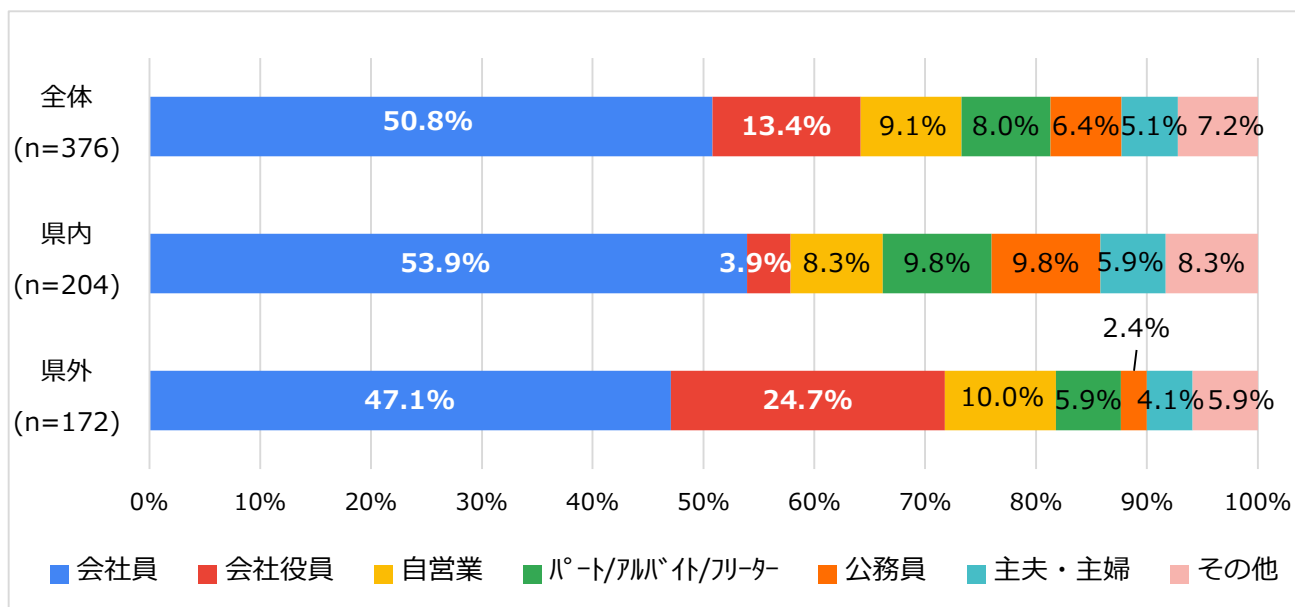
(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

※ダイキン以外の4スポーツは2023年11月～2024年1月にアンケート調査を実施

③ 職業

職業別の構成比を確認する(図表10)。職業別の構成比は県内外共に「会社員」の比率が最も高く、全体で50.8%と過半数を占めた。特徴として県外の「会社役員」が占める割合が24.7%と、県内の3.9%と比較して非常に大きいことがあげられる。(2)で確認した年代別の構成比と整合性があり、相応の収入があることや、余暇の取りやすさなどが背景にあると考えられる。

図表10：職業別構成比



(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

④ 個人年収

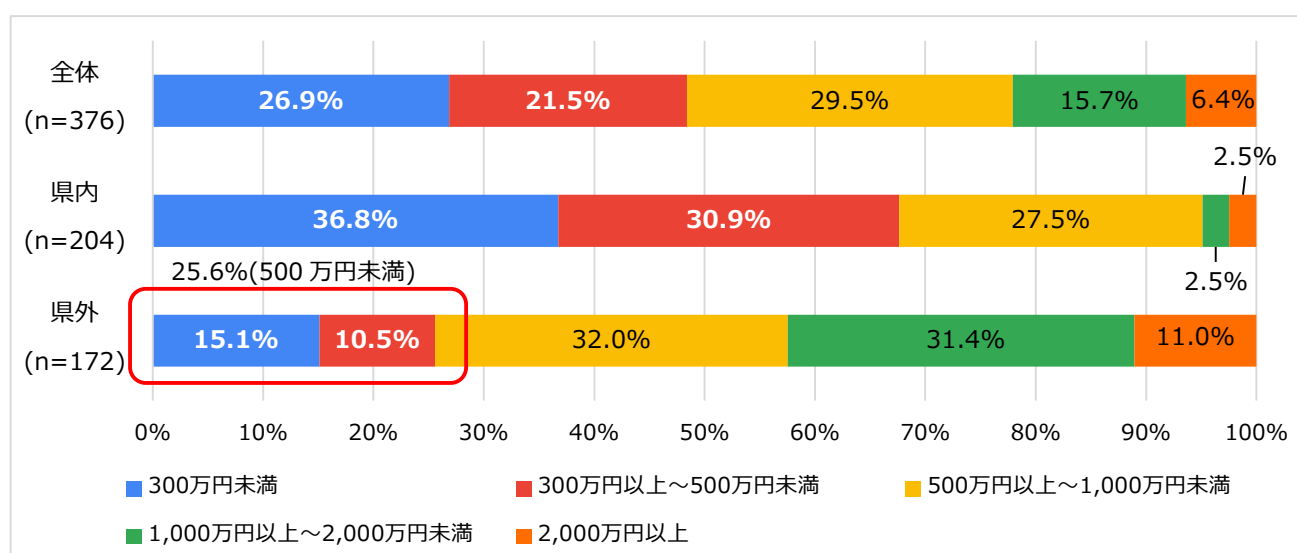
年収別の構成比を確認する(図表 11)。全体でみると、「300 万円未満」「300 万円以上～500 万円未満」が合計で 48.4%となり、500 万円未満が約 5 割を占めた。

次に、県内をみると 1,000 万円未満の 3 つの区分がそれぞれ 3 割程度となっており、年収に関係なく幅広い所得層が満遍なく来場していることが分かる。

また県外をみると 500 万円未満が合計で 25.6%と、県内の 67.7%と比較して非常に小さいことが分かる。これは国税庁の「民間給与実態統計」における 500 万円以下の構成比合計 51.7%と比較しても小さく(図表 12)、ダイキンオーキッド観戦ツアーのために渡航費用や宿泊費などの費用がかかるため、比較的収入が高い層の比率が高くなったと考えられる。

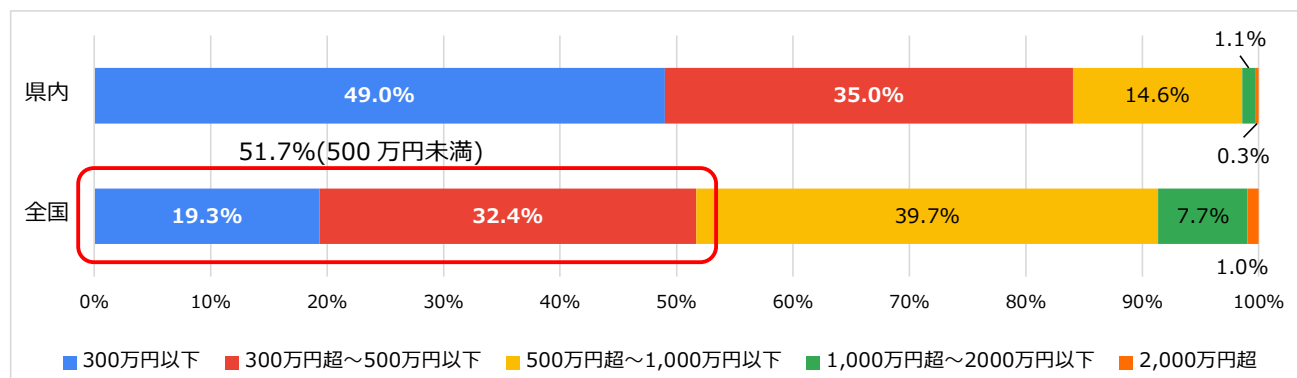
さらに県内外を比較すると、500 万円未満の各区分ではそれぞれ県外よりも県内の比率が高く、逆に 500 万円以上の各区分では県内よりも県外の比率が高いことが分かった。これは国税庁の統計とも整合性がある。

図表 11:年収別構成比



(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

図表 12:年収別構成比(国税庁統計)



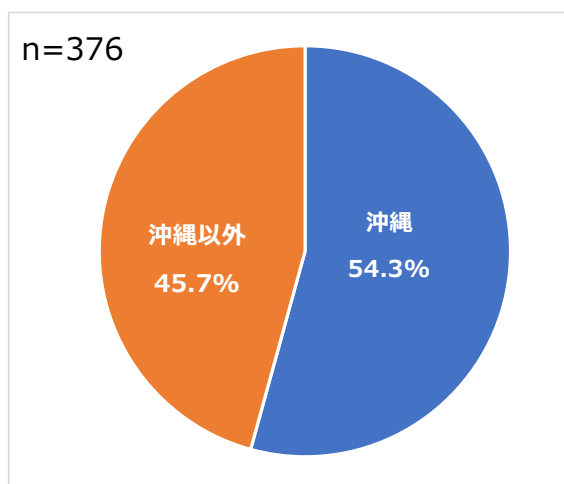
(出所)国税庁「令和 5 年分 民間給与実態統計調査」よりりゅうぎん総合研究所にて作成

⑤ 居住地

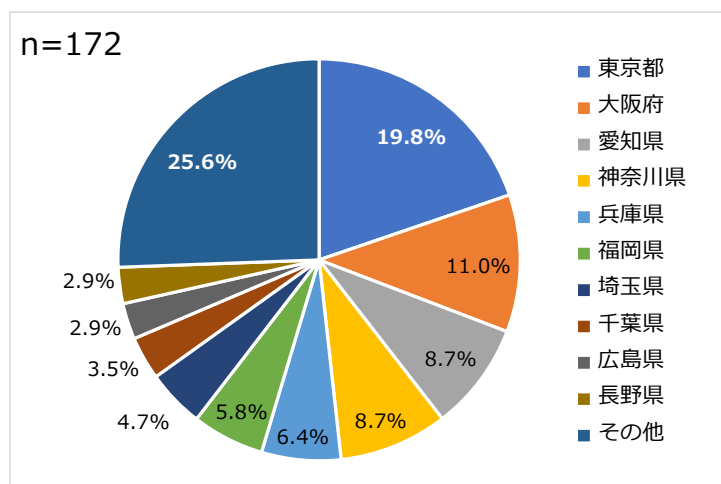
来場者の居住地を確認する(図表 13)。県内・県外の比較では、県内が 54.3%、県外が 45.7%となり、県外からの来場者も半数近くいることが分かった。

県外からの来場者の居住地を都道府県別に確認すると、東京の約 2 割を筆頭に大阪府、愛知県、神奈川県などと続いた(図表 14)。全体では全国 32 の都道府県から幅広く来場しており、本大会の人気の高さがうかがえる結果となった。

図表 13: 居住地(県内・県外)



図表 14: 県外居住地(都道府県別)



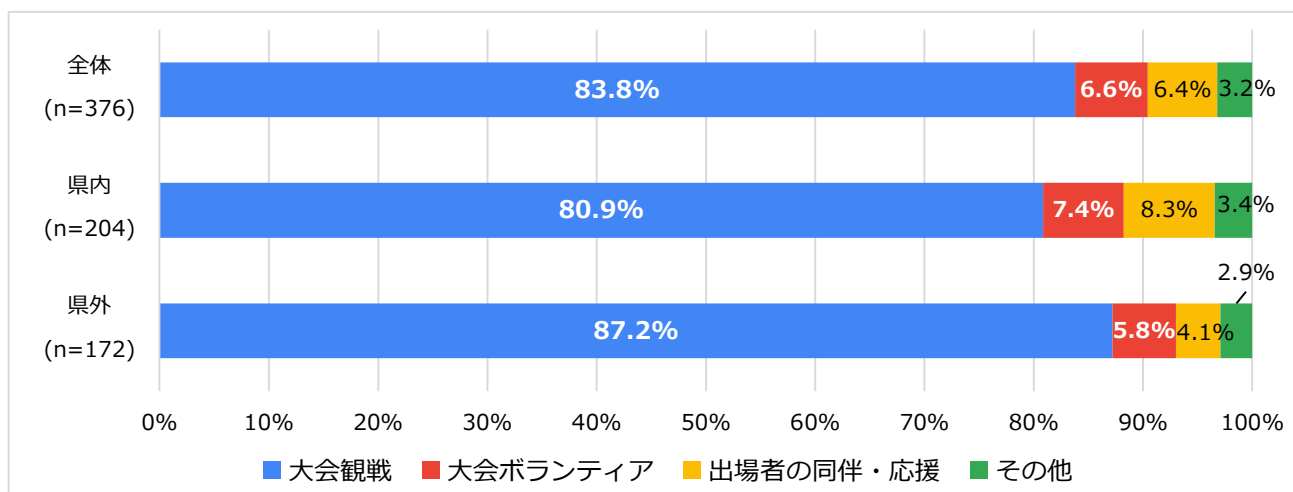
(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

⑥ 旅の目的(県外居住者)/来場目的(県内居住者)(複数回答)

旅の目的(県外居住者)および来場目的(県内居住者)はどちらも「大会観戦」が8割を超えた(図表 15)。次いで「大会ボランティア」「出場者の同伴・応援」と続いた。大会ボランティアのために県外から来場する人も一定数おり、同大会の人気の高さがうかがえた。

「大会観戦」以外の旅の目的については、「(2)県外居住者の回答」の項目で後述する。

図表 15: 旅の目的(県外居住者)/来場目的(県内居住者)



(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

⑦ 旅行人数(県外居住者)/来場人数(県内居住者)

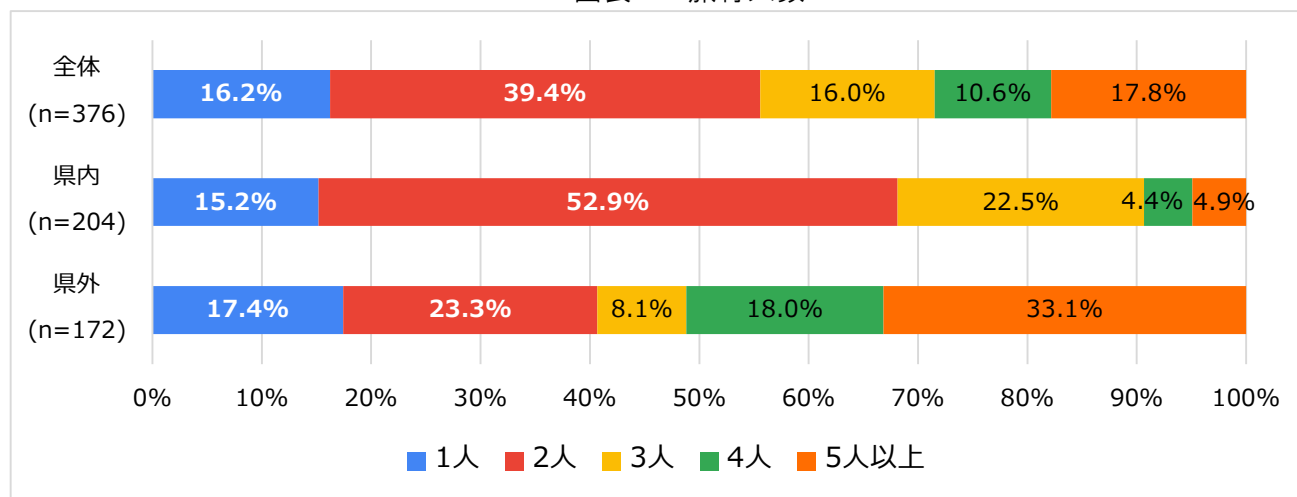
最も多いのが「2人」で4割近くを占めた(図表 16)。県内は「2人」が過半数を超え最多となった一方、県外では「5人以上」が33.1%と最多となった。

県内で「2人」と回答した回答者の属性をみると、年代は幅広く分散している一方、同行者は「家族」が6割超を占めた。

また県外で「5人以上」とした回答者の属性を見ると「50代」が6割超を占め、そのうち同行者は「職場の同僚」や「会社関係」と回答した先が半数を超えた。

来場者の属性としては、県内からは幅広い年代から「家族」と「2人」で、県外からは「50代」以上で「同僚」や「会社関係者」と「5人以上」で来場しているケースが多いことが分かった。アンケート調査時に県外客からは「会社がツアーを組んでおり毎年来ている」との声もあり、同大会の観戦を旅の主目的としたツアーが組成され、来場していることが推測される。

図表 16:旅行人数

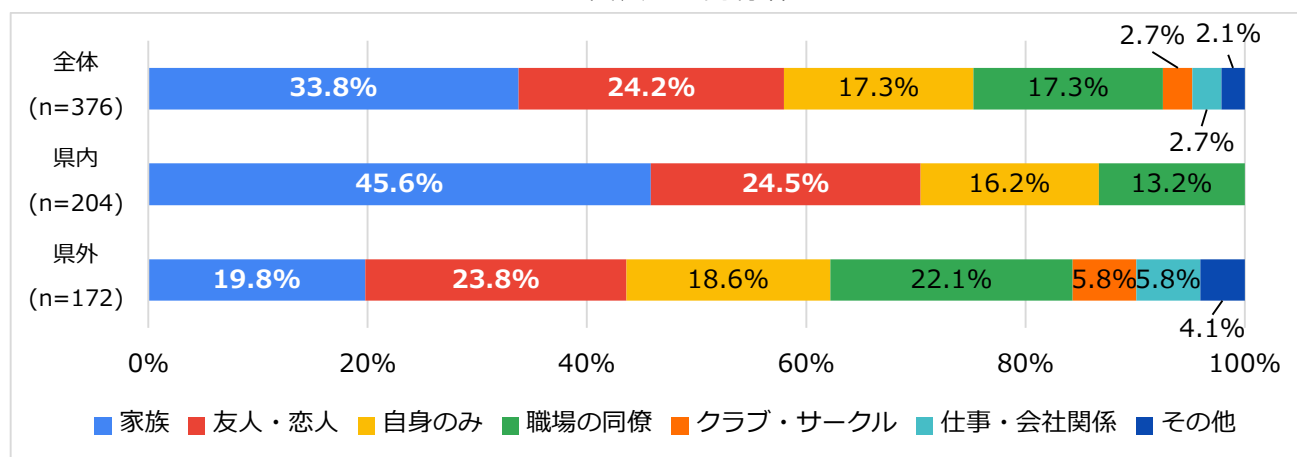


(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

⑧ 同行者

全体でみると「家族」が3割超、「友人・恋人」が2割超となった(図表 17)。県内からの来場者は「家族」と回答した先が半数近くを占めた。

図表 17:同行者



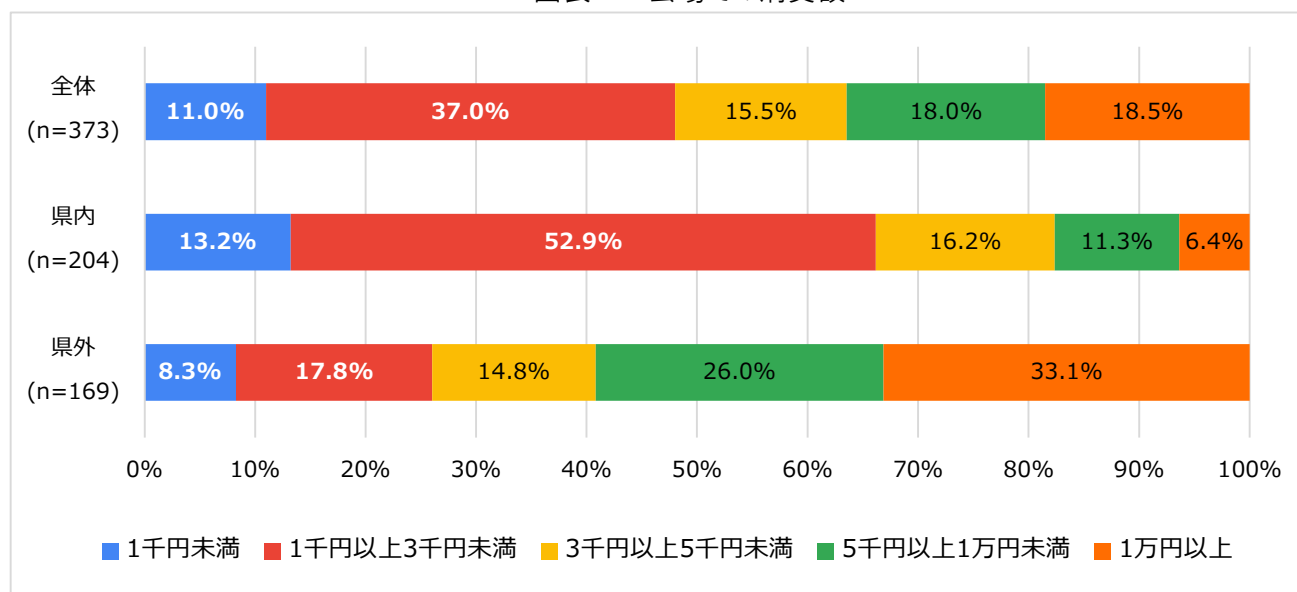
(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

⑨ 会場での消費額

全体では「1 千円以上 3 千円未満」が 37.0%と最も多かった(図表 18)。次いで「1 万円以上」が 18.5%、「5 千円以上 1 万円未満」が 18.0%、「3 千円以上 5 千円未満」が 15.5%、「1 千円未満」が 11.0%と続いた。

県内外でみると県内は「1 千円未満」「1 千円以上 3 千円未満」が合計で 66.1%を占め、県外は「5 千円以上 1 万円未満」「1 万円以上」が合計で 59.1%となった。県外からの来場者は、旅行の一環として会場内での飲食や物販購入などの消費意欲が高いことがうかがえる。

図表 18:会場での消費額



(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

(2) 県外居住者の回答

ここからは「居住地」に関する質問で、「沖縄」以外を回答した来場者の回答内容を見ていく。

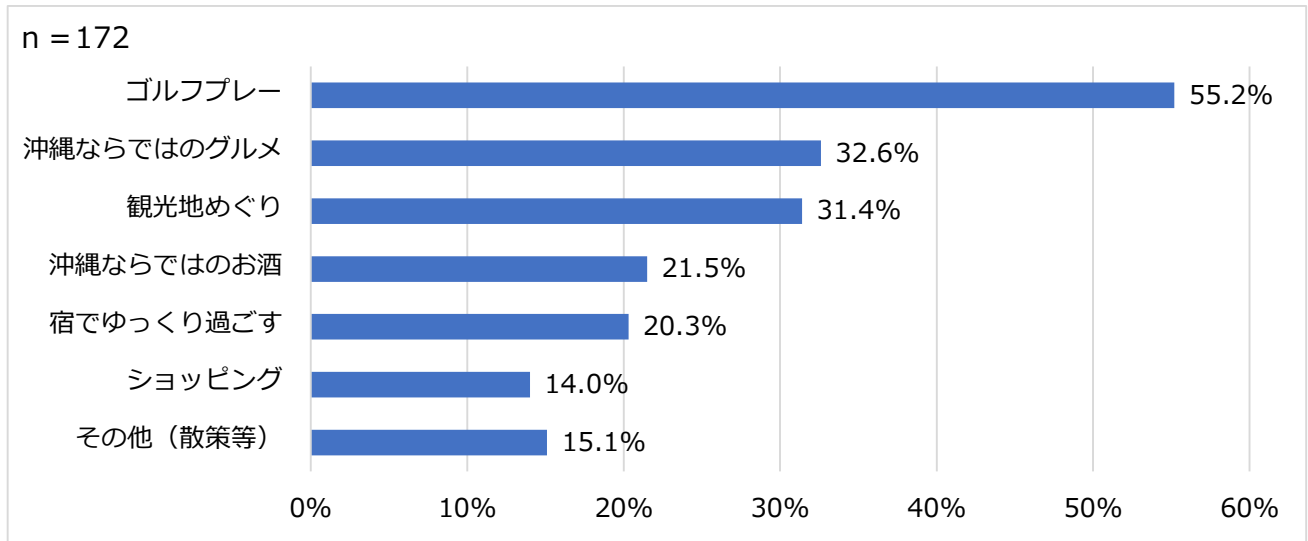
① 試合観戦以外の過ごし方(複数回答)

試合観戦以外の過ごし方として「ゴルフプレー」が最も多く 55.2%と過半数を占め、ゴルフは「観る」だけではなく「する」スポーツであることが明らかとなった(図表 19)。「観る」「する」のどちらの特徴も併せ持っていることから、沖縄における消費額の向上が促進され、幅広い経済効果をもたらすことが期待される。

また、その属性を年代別でみると、50 代が 48.4%と半数に迫った(図表 20)。

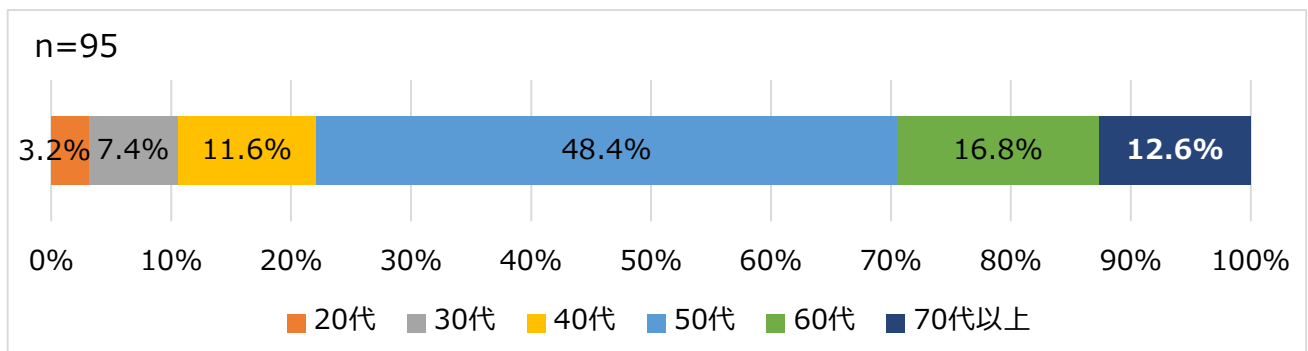
「ゴルフプレー」以外では沖縄ならではの「グルメ」や「お酒」、「観光地巡り」が上位を占めた。また「宿でゆっくり過ごす」も 2 割程度いるなど、ゴルフを主目的としながら、併せて沖縄での観光や滞在を通じて気分転換する副次的な効果もあり、アンケート結果からもスポーツツーリズムが有意義な旅行形態であることが示されたと言えよう。

図表 19: 試合観戦以外の過ごし方(複数回答)



(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

図表 20: 「ゴルフプレー」と回答した年代別構成比



(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

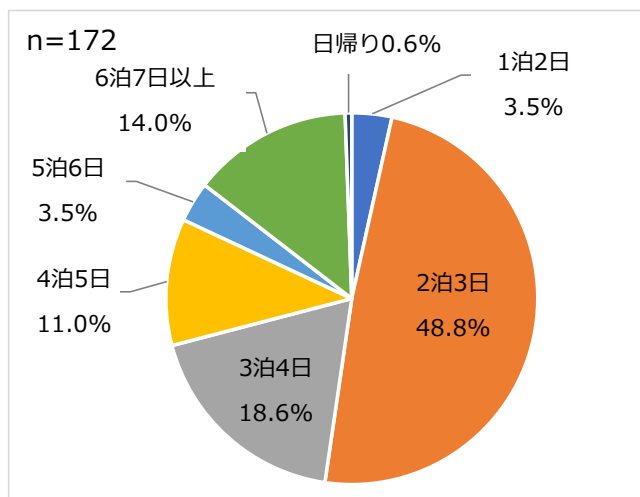
② 滞在日数

滞在日数で最も多いのが「2泊3日」で48.8%を占めた(図表 21)。続いて「3泊4日」が18.6%となり、両者の合計は全体の7割近くを占めた。これは「観る」スポーツである「Bリーグ」と類似の構成比となっている(図表 23)。

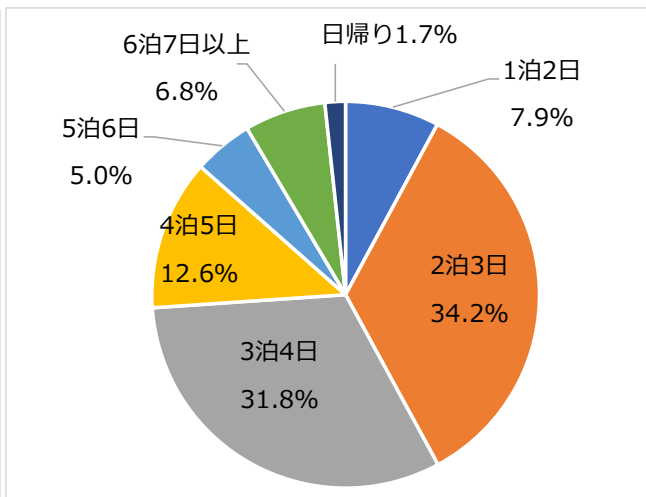
一方で、注目すべきは「6泊7日以上」と回答した割合が14.0%に達している点である。沖縄県の「観光統計実態調査」では、入域観光客の滞在日数のうち「6泊7日以上」の割合は6.8%にとどまっているほか、他のスポーツイベントと比較しても突出して高い(図表 22)。

滞在日数「6泊7日以上」と回答した者の属性を見ると、「70代以上」の33.3%を筆頭に9割以上が40代より上の世代となっており、前項でも触れたように試合観戦やゴルフプレーだけでなく、観光やグルメなどダイキンオーキッド観戦をメインイベントとして、沖縄での滞在を満喫する目的で来沖していることが分かった(図表 24)。

図表 21:滞在日数

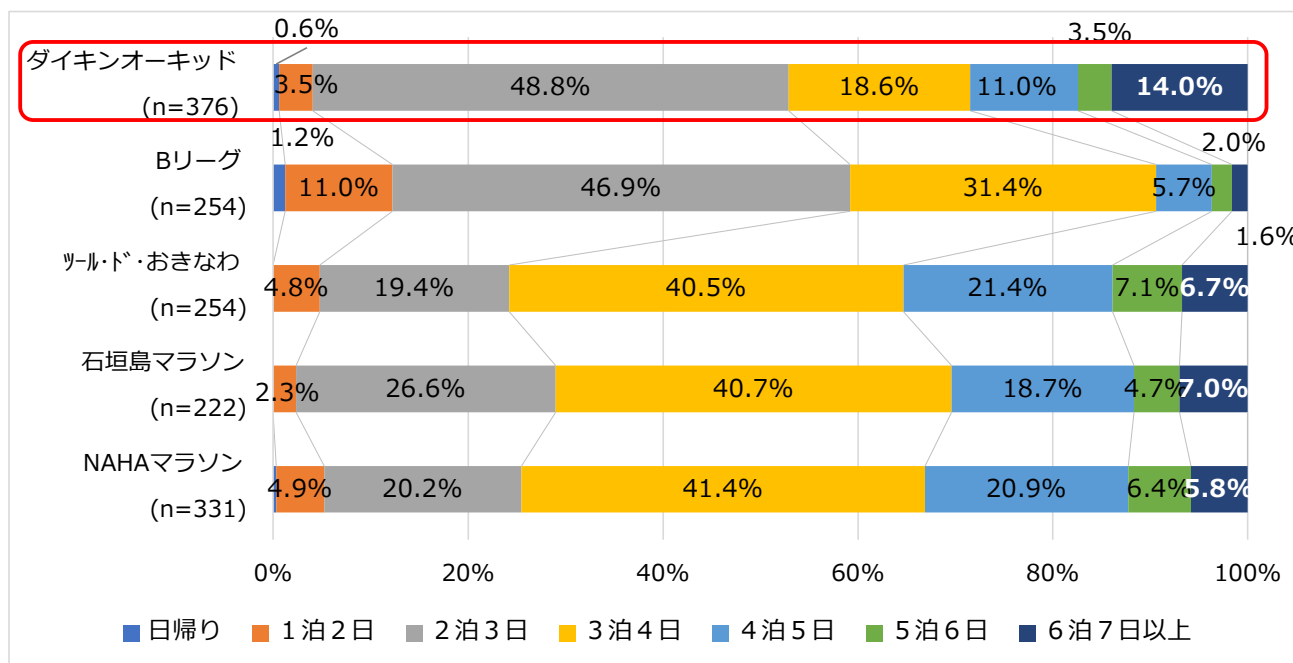


図表 22:沖縄県 国内入域観光客の平均滞在日数



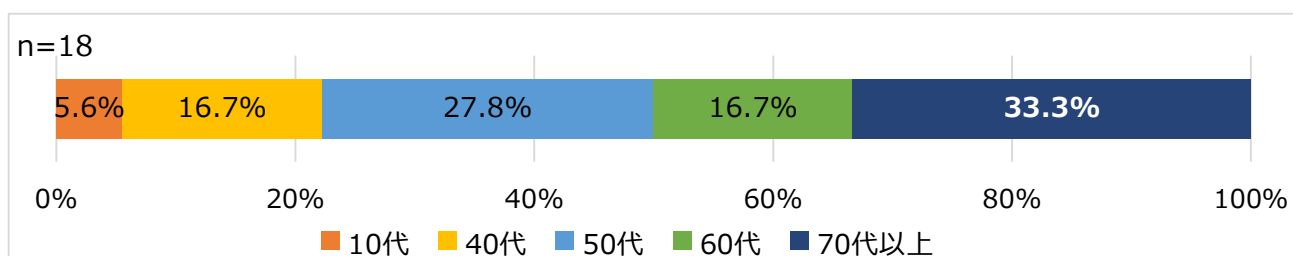
(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成、
沖縄県の値は沖縄県「観光統計実態調査」

図表 23:滞在日数(他スポーツとの比較)



(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成
※ダイキン以外の4スポーツは2023年11月～2024年1月にアンケート調査を実施

図表 24:滞在日数「6泊7日以上」と回答した年代別構成比

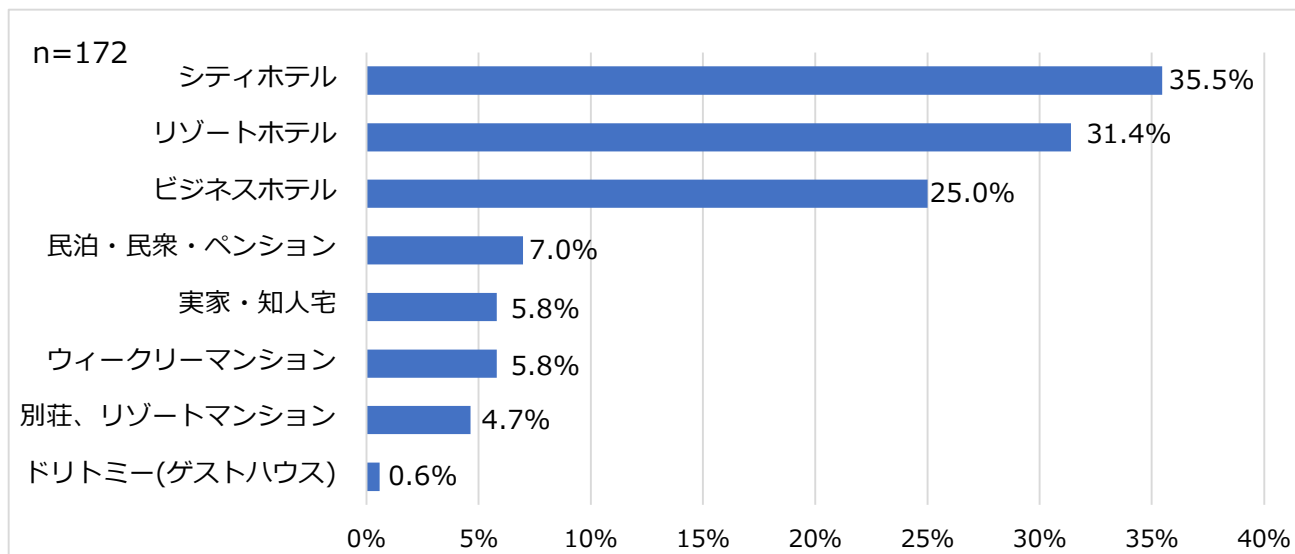


(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

③ 宿泊施設（複数回答）

「シティホテル」「リゾートホテル」「ビジネスホテル」がそれぞれ3割程度となった(図表 25)。

図表 25: 宿泊施設について

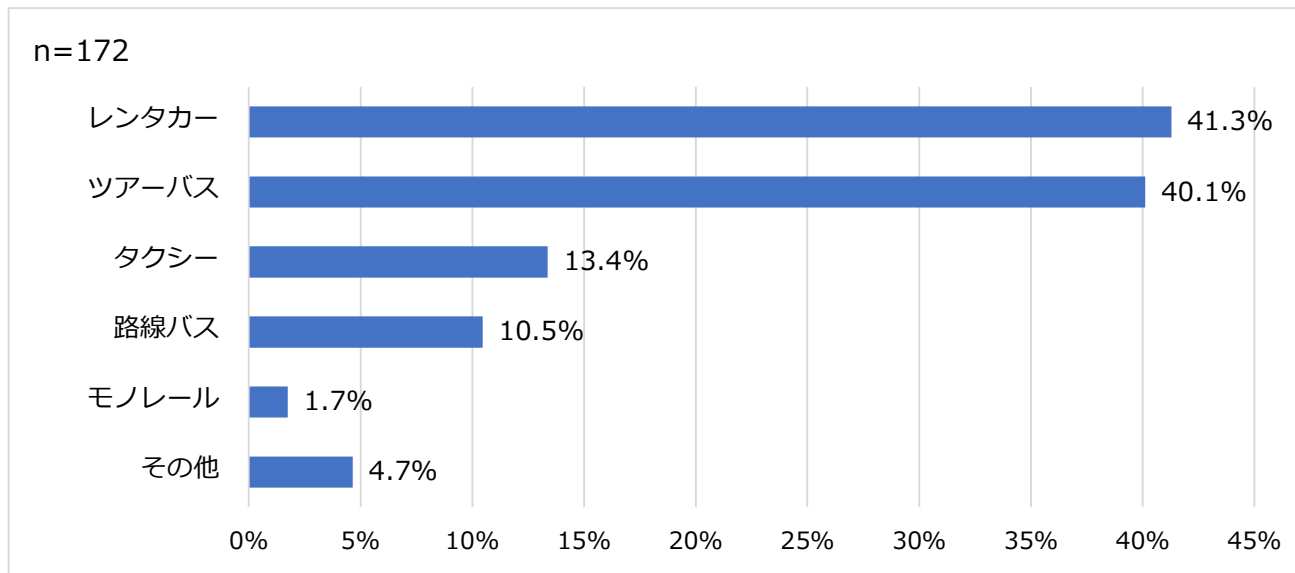


(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

④ 旅の移動手段（複数回答）

「レンタカー」「ツアーバス」がそれぞれ4割超となった(図表 26)。「ツアーバス」は県庁北口が始発地となっており、「③宿泊施設」でシティホテルとビジネスホテルが合計で6割を占めていることと合わせると、那覇市内のシティホテルやビジネスホテルの利用者が多いのではないかと推測される。

図表 26: 旅の移動手段



(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

⑤ 総費用

今回の大会観戦にかかる1人当たりの総費用は、「15万円以上」が59.2%を占め最多となった(図表 27)。これは他のスポーツと比較しても、構成比が非常に高い(図表 28)。沖縄滞在中に、観戦だ

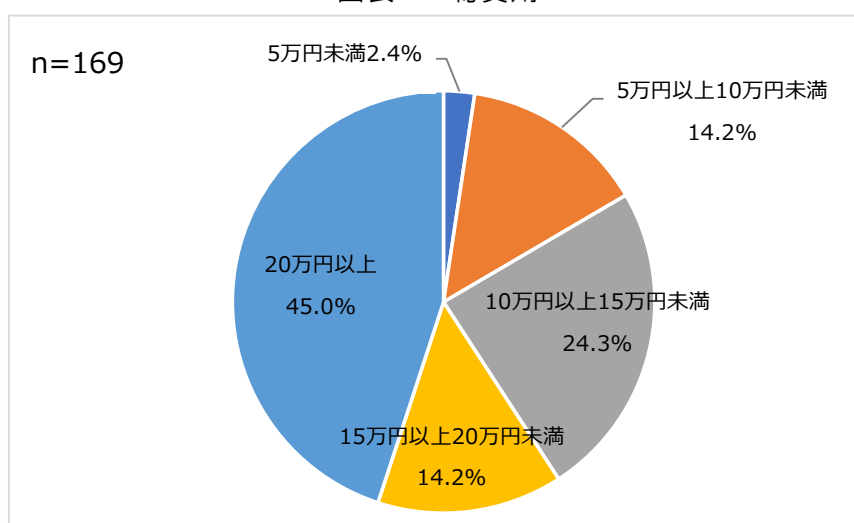
けでなく「ゴルフプレー」をするとの回答が過半数あったことから、プレー代に加えゴルフバッグの輸送費、宿泊費などが費用を押し上げたと推測される。

実際に、アンケート調査を実施するなかで、県外客からは「大会観戦前後にゴルフをする予定」との声が多く聞かれた。

また、アンケート結果からゴルフツーリズム客の観光消費額の大きさが確認された。沖縄県が公表している「観光客一人当たり県内消費額(R6年度1-3月期、速報値)」は 97,511 円である一方、ダイキンオーキッドの来場者の平均消費額は 136,175 円となり、比較すると 38,664 円 (1.40 倍) の差がある (図表 29)。

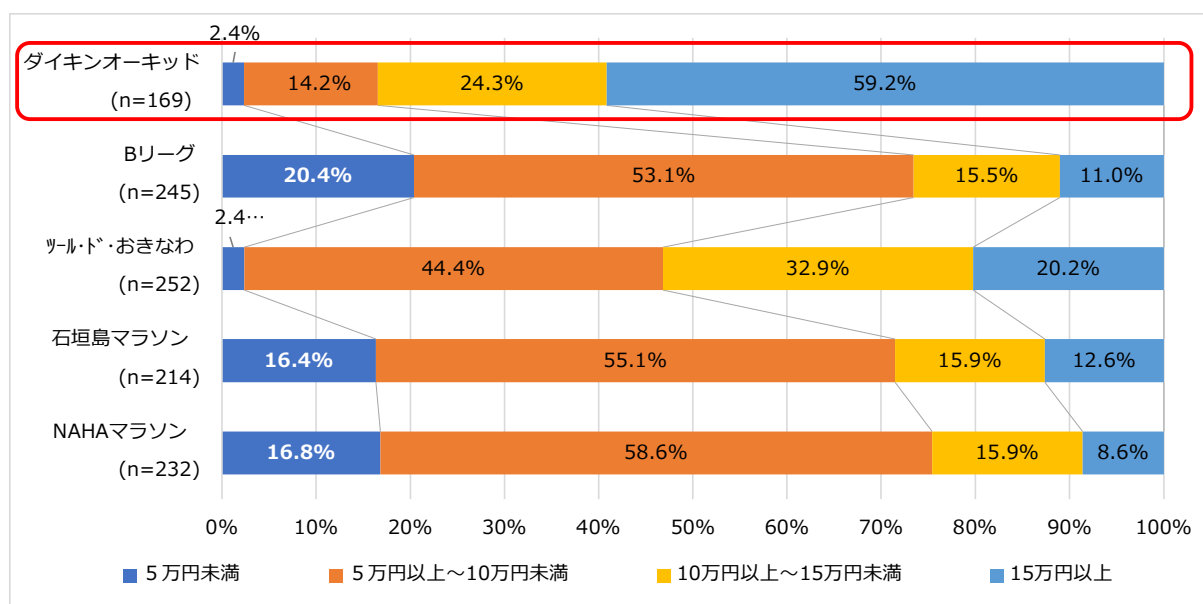
これらの結果から、ゴルフツーリズム客は一般観光を目的に来県する観光客に比べて消費額が大きく、本県が目指す“量から質への転換による観光消費額拡大”への寄与が大きいといえよう。

図表 27:総費用



(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

図表 28:総費用(他スポーツとの比較)



(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

※ダイキン以外の4スポーツは2023年11月～2024年1月にアンケート調査を実施

図表 29:ダイキンオーキッド来場者と一般観光客の消費額比較

項 目	沖縄県 一般観光客 (R6年度1-3月期、速報値)	ダイキンオーキッド来場者 (R6年度3月開催)	差 額	倍 率
宿泊費	35,613	45,798	10,185	1.29
交通費	12,061	17,594	5,533	1.46
お土産代	18,721	10,769	-7,952	0.58
飲食費	20,599	30,219	9,620	1.47
その他(娯楽等)	10,517	23,914	13,397	2.27
会場内消費額	—	7,881	—	—
	97,511	136,175	38,664	1.40

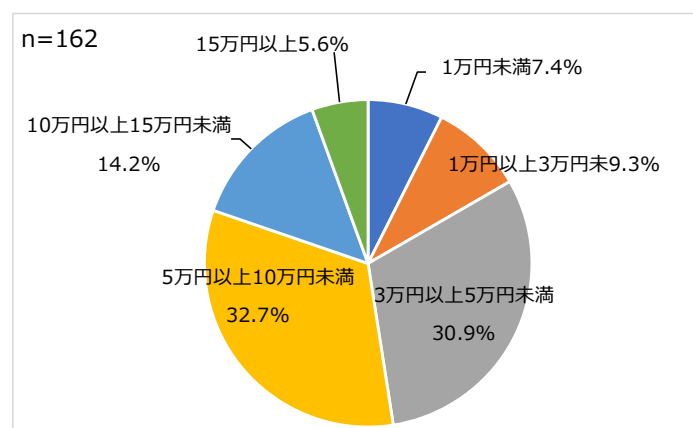
(出所)沖縄県「観光要覧」、OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

県内消費額の内訳を確認すると、「お土産代」のみ一般観光客の消費額を下回ったが、「会場内での消費額」にグッズや特産品などの物販購入額が含まれていることを考慮すると、実質的な差額は大きくないと言えよう。

⑥ 沖縄までの渡航代(航空券・船など)

「3万円以上5万円以内」「5万円以上10万円以内」がそれぞれ約3割となった(図表30)。

図表 30: 沖縄までの渡航代

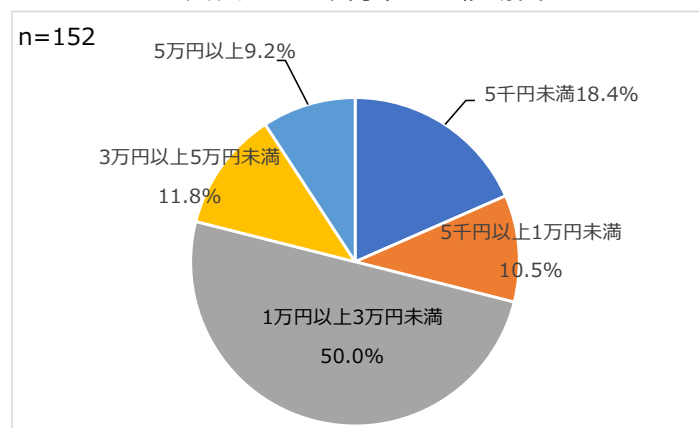


(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

⑦ 沖縄県内の移動費(レンタカー・バス・タクシー)

「1万円以上3万円未満」が50.0%となった(図表31)。

図表 31: 沖縄県内の移動費

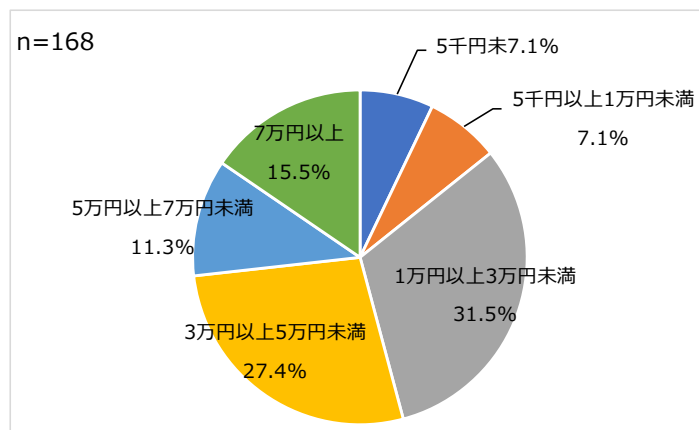


(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

⑧ 宿泊費(1人当たり)

「1万円以上3万円未満」「3万円以上5万円未満」がそれぞれ約3割となった(図表32)。

図表 32: 宿泊費

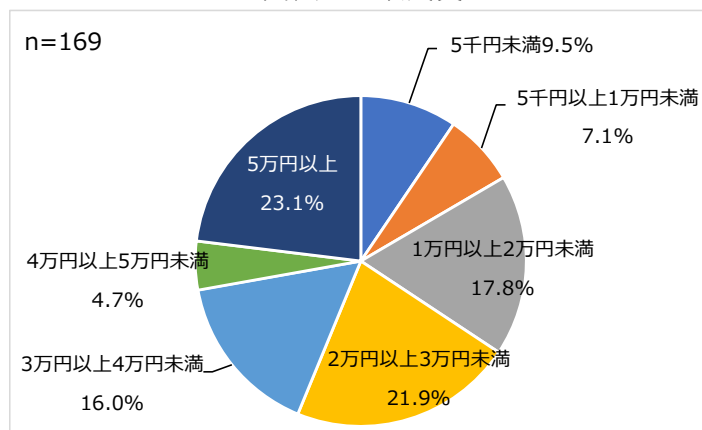


(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

⑨ 飲食費(1人あたり)

「5万円以上」が23.1%と最多となった(図表33)。

図表 33: 飲食費

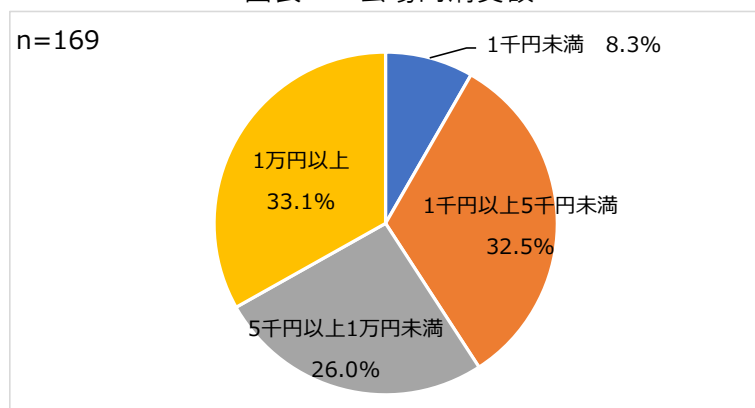


(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

⑩ 会場内での消費額(1人あたり)について(飲食・物販購入など)

「1万円以上」がそれぞれ33.1%と最多となった(図表34)。

図表 34: 会場内消費額

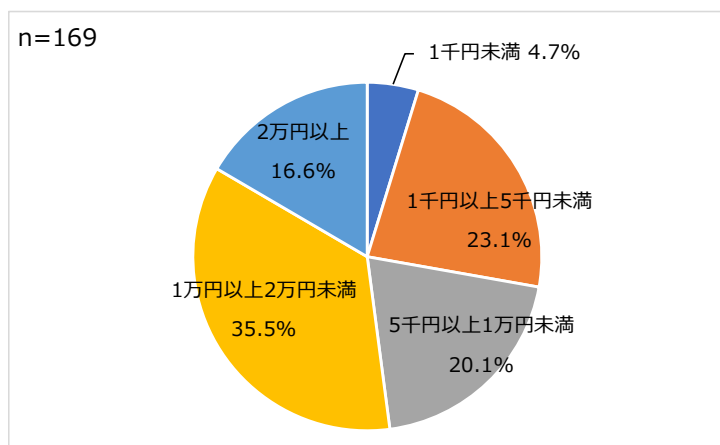


(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

⑪ おみやげ代(1人当たり)

「1万円以上2万円未満」が35.5%と最多となった(図表35)。

図表35:おみやげ代

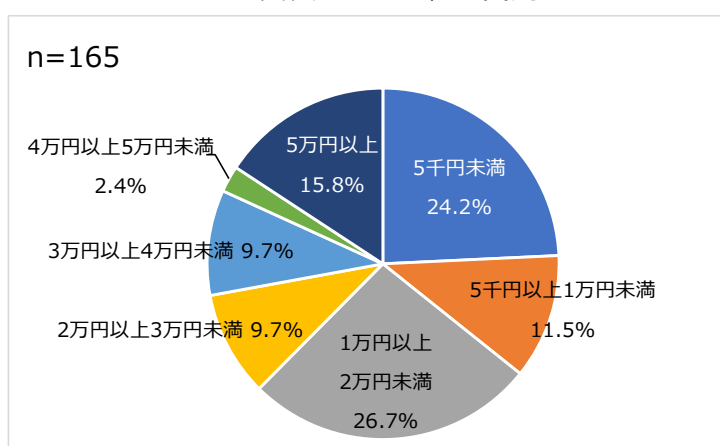


(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

⑫ その他(1人あたり)(娯楽・観光)

「1万円以上2万円未満」が26.7%と最多となった(図表36)。

図表36:その他の費用



(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

⑬ 【県外居住者】沖縄県へのご意見(大会の運営以外) ※一部抜粋

県外居住者のコメントでは、沖縄の気候や自然、豊富な観光スポットに関する前向きなコメントが見られた。またダイキンオーキッドについては、「他県の大会と比較しても別格」と高く評価する声が聞かれた(図表37)。

一方で渋滞緩和など交通網の整備に関する要望や、宿泊施設の不足といったハード面に関する要望もみられた。質問の対象範囲を同大会に限定していないため、沖縄観光に対する要望として受け止める必要がある。

図表 37: 沖縄県への意見(県外居住者、一部抜粋)

- ・ 気候が良く、ゴルフするには良いところ。
- ・ 新しい観光地もできており飽きない。
- ・ 食べ物が美味しい。
- ・ 素晴らしい風景を維持してほしい。
- ・ 他県のゴルフ大会と別格の特別感あり、楽しいイベント。
- ・ 沖縄での大会を増やしてほしい。
- ・ 渋滞の緩和、道路網の整備。
- ・ 宿が取れない。
- ・ 思っていたより寒く、事前に何かで知る術があれば嬉しい。
- ・ レンタカーが少し安くなるとありがたい。
- ・ ゴルフ場の単価が高い。
- ・ タクシーの配車が遅い。
- ・ ゴミが目立つ。
- ・ テント内に観戦ビジョンが欲しい。

(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

⑭【県内居住者】沖縄県のスポーツツーリズム発展のためのご意見(一部抜粋)

県内居住者のコメントでは、シャトルバスの利便性やゴルフと沖縄の親和性などに着目した前向きなコメントが見られた(図表 38)。また「子供が楽しめる企画」を盛り込めば家族連れなどの来場誘致に有効であろう。

一方で県外居住者と共通して、渋滞や交通網に関する要望が見られた。また同大会へ向けられたコメントであるかは定かではないが、施設の美化や観客の観戦マナーに関する要望もみられた。選手、来場者双方にとっての沖縄開催という魅力度を高めるため、どのスポーツイベントにおいても施設内外の美化や観戦マナーの周知(分かりやすいパンフレットの配布、SNS による発信など)も必要だと考えられる。

図表 38: 沖縄県のスポーツツーリズム発展に向けた意見(県内居住者、一部抜粋)

- ・ シャトルバスも多方からあって利便性が良いと思う。
- ・ ダイキンの影響に驚いた。
- ・ 沖縄ツアーがもっとあればいい。
- ・ 沖縄の魅力のひとつであるゴルフで、沖縄をゴルフの聖地にしてほしい。
- ・ 子供が楽しめる企画を入れてほしい。
- ・ トイレをきれいにしてほしい。
- ・ キングスの試合の時の駐車場を充実させてほしい。
- ・ 観戦マナーの周知。
- ・ 道路・交通の整備。

(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

（３） アンケート結果の総括

アンケート結果から、本県のスポーツツーリズムを推進する上でゴルフという競技が重要な位置付けであることを確認した（図表 39）。

県外客の属性としては、比較的金銭面に余裕のある「50 代以上」が約 8 割を占め、職業は「会社役員」の割合が高く、高収入層の割合が高い点が特徴的であった。

また、大会観戦以外の過ごし方では「ゴルフプレー」との回答が最も多く、ゴルフは「観る」「する」の両方を兼ね備えたスポーツであることが改めて示された。

そして、最も注目すべきは消費額の大きさである。ゴルフツーリズム客は一般観光客に比べて消費額が 1.4 倍となり、沖縄観光への寄与を裏付ける結果となった。また、滞在日数が「6 泊 7 日以上」と回答した割合が 14.0%（沖縄県の入域観光客：6.8%）に達しており、一般観光客に比べ長期滞在の割合が多い傾向がみられた。本県においては、その温暖な気候から観光需要の閑散期にあたる冬場にゴルフ需要のピークを迎える。ゴルフツーリズムの更なる推進により、沖縄観光の積年の課題である「年を通した需要の平準化」や「量から質への転換」など、沖縄経済への大きな一助となることが期待される。

図表 39: アンケート結果から確認したゴルフツーリズムの特徴

—ゴルフツーリズム客の特徴—

- ✓ 年代…「50 代以上」が 77.9%と約 8 割を占める
- ✓ 職業…「会社役員」の割合が 24.7%を占める（県内客：会社役員 3.9%）
- ✓ 年収…「500 万円以上」が 32.0%、「1000 万円以上」が 42.4%と高収入層が多い
- ✓ 観戦以外の過ごし方…「ゴルフプレー」が 55.2%と過半数を占める
- ✓ 県内消費額…平均 136,175 円と一般観光客の 1.4 倍
- ✓ 滞在日数…「6 泊 7 日以上」が 14.0%と長期滞在の割合が大きい（一般観光客：6.8%）

（出所）りゅうぎん総合研究所

4. 第38回ダイキンオーキッドの経済波及効果

本章では、ダイキンオーキッド開催による経済波及効果を測定することで、沖縄経済への貢献を定量的に明らかにする。

(1) 産業連関表について

産業連関表とは、一定期間内（通常1年間）にある特定の地域で行われた各産業間での財・サービスの経常的な取引（生産・販売の実態）を行列形式で表にまとめた統計表である。

各産業は他の産業から原材料や燃料等を購入し、これらを加工して新たな財・サービスを生産し、さらにそれを別の産業に対して販売する。購入した産業は、それらを原材料として再び新たな財・サービスを生産する。産業連関表は、このような財・サービスの「購入→生産→販売」という産業相互間の連鎖的なつながりを一覧にした統計表であり、域内における経済循環の流れを示している。

本調査では、沖縄県産業連関表（2015年）を用いて経済波及効果分析を行う。なお、沖縄県が作成した14部門表には、同トーナメント開催により需要増加が見込まれる「宿泊業」や「飲食サービス業」などの観光関連産業が「サービス」に一括りとなっているため、公表用基本分類表（行458部門、列367部門）より同部門を抽出し、汎用的に活用できるよう24部門表を作成した（図表40）。

図表40: 産業連関表部門部類の組み換え

沖縄県14部門表		りゅうぎん総研24部門表	
部門名		部門名	
1	農林水産業	1	農林水産業
2	鉱業	2	製造業
3	製造業	3	建設業
4	建設業	4	電気・ガス・水道
5	電気・ガス・水道	5	卸売業
6	商業	6	小売業
7	金融・保険	7	金融・保険業
8	不動産	8	不動産業
9	運輸・郵便	9	運輸・倉庫業
10	情報通信	10	旅行・その他の旅行附帯サービス
11	公務	11	情報・通信・郵便業
12	医療・保健・社会保障・介護	12	公務
13	サービス	13	教育・研究
14	その他	14	医療・福祉
		15	会員制企業団体
		16	対家計民間非営利団
		17	貸自動車業
		18	物品賃貸業（除く貸自動車）
		19	対事業所サービス
		20	宿泊業
		21	飲食サービス業
		22	対個人サービス
		23	事務用品
		24	分類不明

（出所）りゅうぎん総合研究所

(2) 経済波及効果算出の流れ

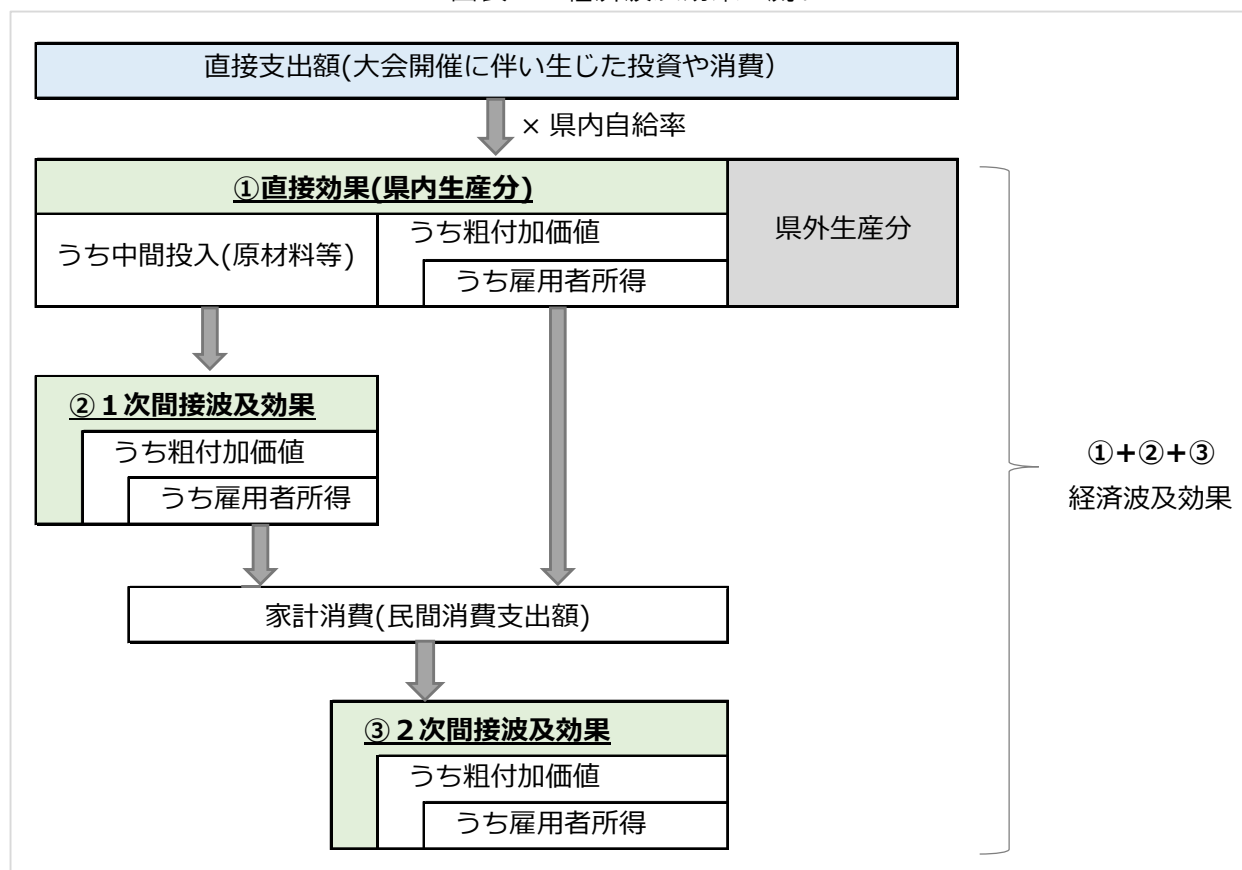
図表 41 に経済波及効果算出の流れを示した。分析にあたり、前提条件となる大会開催により新たに発生した需要（消費・投資）である直接支出額に県内自給率を乗じたものが「直接効果（県内生産額）」となる。直接効果とは、各産業における事業活動のうち、県内で生じた財やサービスに対する需要のことで、県内各産業に新たに生じた生産増加分を指す。自給率を乗じるのは、需要のすべてが県内で生産された財やサービスに対して発生するわけではなく、域外（県外・海外）からの移輸入により賄われた分も含まれており、その域外生産分を除くためである。

次に、産業連関表の各種係数を用いて間接波及効果を求める。間接波及効果は「1次間接波及効果」（直接効果に要した原材料を通して他の産業の生産を誘発する効果）、「2次間接波及効果」（直接効果、1次間接波及効果によって誘発された雇用者所得が家計消費を通して各産業の生産を誘発する効果）を足し合わせたものである。

これらの直接効果、1次間接波及効果、2次間接波及効果の合計が「経済効果（生産誘発額）」となる。また、経済効果のうち雇用者に支払われた賃金である雇用者所得や企業の利益である営業余剰などが「粗付加価値額」である。

➤ 経済波及効果＝直接効果＋1次間接波及効果＋2次間接波及効果

図表 41: 経済波及効果の流れ



(出所)りゅうぎん総合研究所

(3) トーナメント参加者・観客数

第 38 回ダイキンオーキッドレディースゴルフトーナメントの参加人数は、選手・関係者は合計で約 2,000 人（前年と同数）となり、報道関係者や解説者は約 120 人（同 20.0%増）となった（図表

42)。大会期間中の延べ観客数は、1万4,540人（同5.1%減）となった。大会初日は悪天候となったことなどから延べ観客数は減少したものの、県出身選手や人気選手の参加などもあり連日多くの観客が訪れ、4日間を通して活況さがみられた。

また、アンケート結果から得た県内客・県外客の割合から、延べ観客数のうち県内客は7,852人、県外客は約6,688人と推計された。

図表 42:参加者・観客数(単位:人)

	人数(人)	前年比(%)
選 手・関 係 者	2,000	0.0
報 道 関 係 者	120	20.0
観 客 (延 べ)	14,540	▲ 5.1
うち県内客	7,852	-
うち県外客	6,688	-

(出所)ダイキンオーキッド大会事務局提供

(4) ダイキンオーキッドの関連支出額（直接支出額）

ダイキンオーキッド開催にあたっては、選手や関係者に加え、県外から多くの観客が沖縄県を訪れ、県内で宿泊や飲食、娯楽レジャー、土産品購入などに支出することに加え、多くの県民が会場へ出かけ、飲食や土産品・グッズ等を購入する。また、大会主催者による大会運営のための支出や関連経費等の支出があり、これらを合計したものが直接支出額となる。

アンケート回答結果および大会事務局からの提供資料をもとに直接支出額を推計すると、総額で23億400万円となった（図表43）。内訳をみると、宿泊費が4億9,800万円で最も多く、次いで飲食費が3億9,100万円、娯楽・レジャー費が2億5,800万円、交通費が2億2,600万円などとなった。

図表 43:ダイキンオーキッド関連支出(直接支出額)

支 出 項 目	支 出 額 (百万円)
宿 泊 費	498
飲 食 費	391
土 産 品 ・ グ ュ ヅ 購 入 費	138
交 通 費	226
娯 楽 ・ レ ジ ャ ー 費	258
そ の 他	793
合 計	2,304

(出所)りゅうぎん総合研究所

(5) 沖縄県内におけるダイキンオーキッドの経済効果

まず、県内の産業全体の自給率は100%ではないため、(1)で求めた直接支出額23億400万円に自給率を掛けると県内供給分である直接効果20億300万円が求められる（図表44）。

次に、宿泊費や飲食費、土産品・グッズ購入費などの需要が発生すると、当該産業だけでなく、こうした産業に原材料やサービス等を提供している産業の売上増加へと波及していく。これが1次間接効果であり、7億200万円となる。さらに、直接効果と1次間接効果で生じた各産業における雇

用者の所得増加は、家計（個人）の消費支出を増加させ、関連する各産業の生産を誘発していく。これが2次間接効果であり、4億2,400万円となる。

直接効果、1次間接効果、2次間接効果の合計が31億2,900万円となり、これが第38ダイキンオーキッドレディスゴルフトーナメント開催による経済効果である。直接支出額に対し、1.36倍の経済効果をもたらすこととなる。

また、経済効果のうち、粗付加価値額が17億3,700万円となり、うち雇用者所得が7億9,900万円と推計された。

図表 44:ダイキンオーキッドによる経済効果

	経済効果額 (生産誘発額)	粗付加価値誘発額	
			雇用者所得誘発額
直 接 効 果	2,003	1,076	518
1 次 間 接 効 果	702	396	176
2 次 間 接 効 果	424	266	105
総 合 効 果（経済効果）	3,129	1,737	799
直 接 支 出 額	2,304	—	
波 及 効 果	1.36 倍（総合効果 / 直接支出額）		

（出所）りゅうぎん総合研究所

- （注） 1. 直接効果は、直接支出に県内自給率を乗じたもの（域外生産分を除くため）。
 2. 1次間接効果は、原材料を他の産業から購入することによって起こる波及効果。
 3. 2次間接効果は、直接効果、1次間接効果によって誘発された雇用者所得が家計消費を通して再び生産を誘発する効果。
 4. 生産誘発額は、需要（直接支出）の増加により誘発された各部門の生産額の合計。
 5. 粗付加価値は、誘発された生産額の中に占める雇用者所得や営業余剰など。
 6. 端数処理により合計は合わないことがある。

<補注> 経済効果について、前年の第37回大会(24億3,700万円)と比較すると28.3%増加したが、これは「県外客の消費額」の推計方法の違いが主な要因である。前年は沖縄県「観光客一人あたりの県内消費額」をもとに推計した。一方、今年は「アンケート結果から得た一人あたり県内消費額(平均値)」をもとに推計しており、“より実態に近い数値”と捉えることができよう。

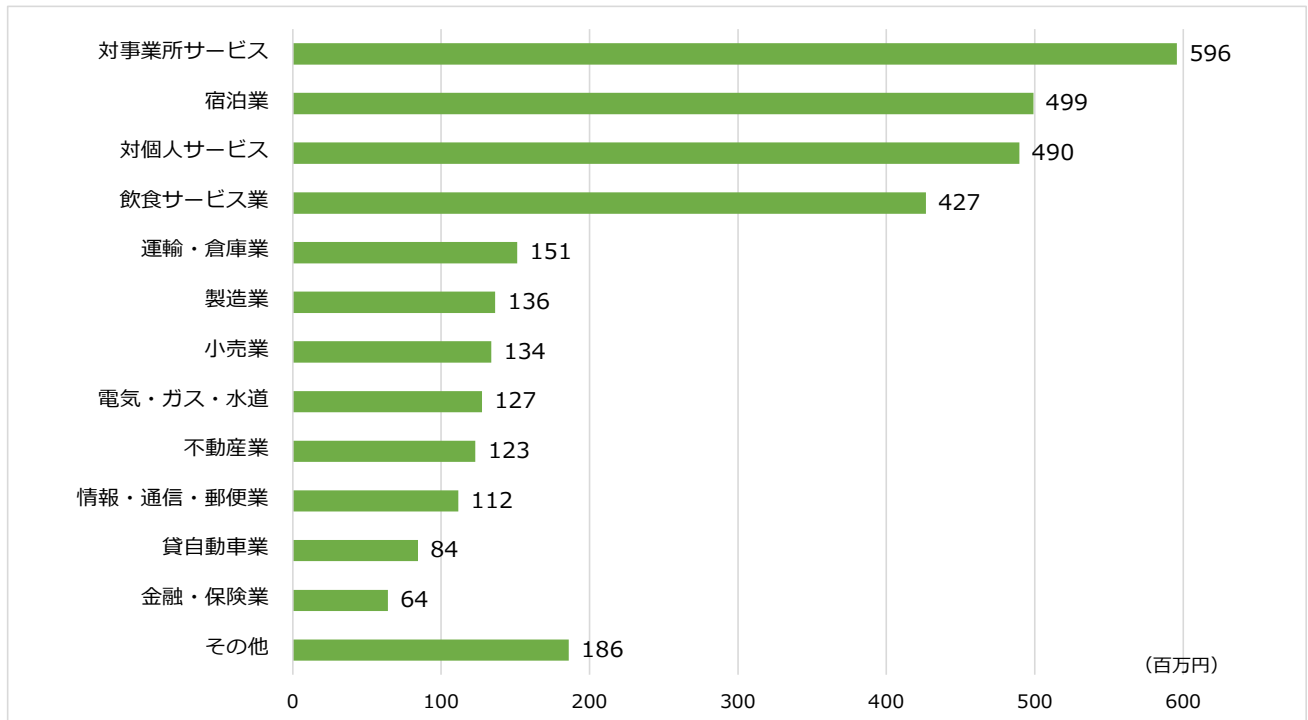
【参考】県外客消費額の推計方法：

- ・前年(第37回大会調査)…沖縄県の統計「観光客一人あたりの県内消費額」を採用
- ・今年(第38回大会調査)…アンケート結果から得た一人あたり県内消費額(平均値)を採用

（6）産業別の経済効果

経済効果である31億2,900万円を産業別にみると、ゴルフ場使用料や広告宣伝費等の大会運営費が含まれる「対事業所サービス業」が5億9,600万円と最も大きく、次いで「宿泊業」が4億9,900万円、「対個人サービス業」が4億9,000万円、「飲食サービス業（飲食店など）」が4億2,700万円などの順となった（図表45）。

図表 45:ダイキンオーキッドによる産業別の経済効果



(出所)リゅうぎん総合研究所

(参考) 第 38 回ダイキンオーキッドレディースゴルフトーナメントの経済効果

単位：百万円	経済効果計				粗付加価値額	雇用者所得
		直接効果	1次間接波及効果	2次間接波及効果		
農林水産業	34	0	27	7	13	8
製造業	136	16	89	32	47	19
建設業	6	0	4	1	2	1
電気・ガス・水道	127	0	103	25	68	21
卸売業	49	5	33	11	46	28
小売業	134	48	29	56	73	41
金融・保険業	64	0	33	31	49	23
不動産業	123	0	23	100	101	7
運輸・倉庫業	151	105	29	17	79	40
旅行・その他旅行関連サービス	28	1	26	1	12	3
情報・通信・郵便業	112	0	84	28	64	30
公務	2	0	0	2	1	1
教育・研究	11	0	3	8	9	8
医療・福祉	23	0	0	23	14	12
会員制企業団体	9	0	8	1	5	4
対家計民間非営利団	4	0	0	4	2	1
貸自動車業	84	53	30	1	52	10
物品賃貸業（除く貸自動車）	15	0	13	2	10	2
対事業所サービス	596	438	133	25	374	208
宿泊業	499	498	0	1	236	85
飲食サービス業	427	391	10	25	178	116
対個人サービス	490	447	19	24	304	132
事務用品	6	0	6	1	0	0
分類不明	0	0	0	0	0	0
合 計	3,129	2,003	702	424	1,737	799

(出所)リゅうぎん総合研究所

5. おわりに

～Ever Onward with OKINAWA ダイキンオーキッドの経済効果の拡大に向けた展望～

本レポートでは、県内唯一の女子プロ大会であるダイキンオーキッドの経済波及効果を算出し、長きに亘り県内で継続開催されてきた意義を定量的に明らかにした。第38回大会による県内への経済波及効果は31億2,900万円と試算され、4日間という短期間ではありながらも、同大会の知名度および誘客力の高さから県内各産業へもたらす生産誘発効果の大きさを示す結果となった。

また、OCVBが実施したアンケート結果から、ゴルフは「観る」「する」の両方を兼ね備えたスポーツツーリズムであり、他の競技に比して高収入層が多く消費単価が大きいことや滞在日数の長さなど、ゴルフという競技の優位性や沖縄観光への寄与を裏付ける数々の結果が示された。このような層へのアプローチを強化することで、今後はさらなる消費単価の拡大や滞在日数の延伸といった観光施策上の重要な成果が期待される。特に、富裕層をターゲットとした高付加価値型の商品造成や、ゴルフ観戦・プレーを組み合わせた滞在プログラムの開発により、リピーターの獲得や新たな市場開拓につながる可能性も高い。今後はスポーツイベントを核とした地域振興・観光振興の好事例として、さらなる展開が期待される。

これらの経済的な効果に加え、地域社会への貢献も大きい。ダイキンオーキッドは、各種メディアで大きく取り上げられることから、全国へ沖縄県をPRする機会になっている。また、地元のジュニアゴルファーにとってトッププロのプレーを間近で見ることのできる貴重な機会となっているほか、アマチュア大会やポスターコンテストの開催など、沖縄の次代を担う若年層の育成という重要な役割も果たしている。加えて、1995年（第8回大会）に設立され、県内の芸術・文化・スポーツ・教育など幅広い活動への支援を行う「オーキッドバウンティ²」は、これまでの贈呈先は延べ290件、総額は1億9,200万円³に上るなど、沖縄の地域社会への経済的・精神的な励ましとなっており、特筆すべき貢献である。

発展を続ける同大会において、今後更に多くのギャラリー客を招き入れ、経済効果の拡大を目指す取り組みの参考として、以下2点についての検討を提案したい（図表46）。

図表 46 : ダイキンオーキッドの経済波及効果の更なる拡大に向けた提案

① SNSを活用した情報発信強化

- ・ 交通渋滞や気象情報など旅に必要な情報に加え、近隣の飲食店や観光情報の提供などによりリピーター創出、新たな客層獲得につなげる

② 会場内の環境整備

- ・ ギャラリープラザ内への観戦ビジョン設置による会場内での消費額増加
- ・ Wi-Fi環境整備による利便性向上

（出所）りゅうぎん総合研究所

1 点目は、情報発信力強化である。アンケートでは、「交通渋滞」に関する声が多く寄せられたほか、「気象情報」を求めるコメントもみられた。今年からの新たな取り組みであるSNSを通じたシャ

² 本大会開催前のプロアマ大会参加者からの浄財と両主催者の寄付金等を源とする基金であり、県内の芸術・文化・スポーツ・教育等の振興を目的としている活動に対し支援金を贈呈している。

³ 第38回大会公式HP <https://www.daikin.co.jp/orchid>

トルバスの案内や渋滞予測情報、また沖縄の変わりやすい天候に合わせた服装の提案など旅に必要な情報に加え、会場周辺の飲食店や観光情報等、付加価値の高い情報発信によりリピーターの創出や新たな客層の獲得につながることが期待できよう。

2点目は、会場内（ギャラリープラザ）の環境整備である。アンケートでは、「テント内（ギャラリープラザ）に観戦ビジョンを設置してほしい」といったコメントがみられた。観戦ビジョンの設置により、中継を観ながらゆっくりと休憩や飲食をすることができ、ギャラリープラザに並ぶ地元の飲食店や土産品店、グッズ販売店などの売上向上（＝消費額増）並びに経済波及効果の拡大へと繋がることを期待できる。また、アンケート調査を実施するなかで、通信環境の改善が課題であることを実感した。来場者の利便性向上に向け、観戦ビジョン設置や Wi-Fi 環境整備等について検討が求められる。

ダイキンオーキッドレディスゴルフトーナメントは、本県で開催される唯一の女子プロゴルフ大会であり、全国にゴルフシーズンの幕開けを告げる重要な役割を担いながら、地域振興やスポーツ文化の発展、沖縄の魅力発信などに大きく貢献してきた。またそれと同時に、沖縄県が目指す「スポーツアイランド沖縄」の形成や「観光需要平準化」、「量から質への転換」等へ寄与する重要な位置付けである。

会場内では、ゴルフ観戦だけでなく、ギャラリープラザでの飲食や芝生でピクニックを楽しむ様子がみられ、来場者の憩いの場として活気に溢れる雰囲気が印象的であった。今後も大会テーマである“沖縄とともに限りなき前進”を実現し、同大会のさらなる発展に期待したい。

りゅうぎん総合研究所 取締役調査研究部長 安仁屋 宗哲
研究員 米須 唯

写真:ギャラリープラザ内の様子



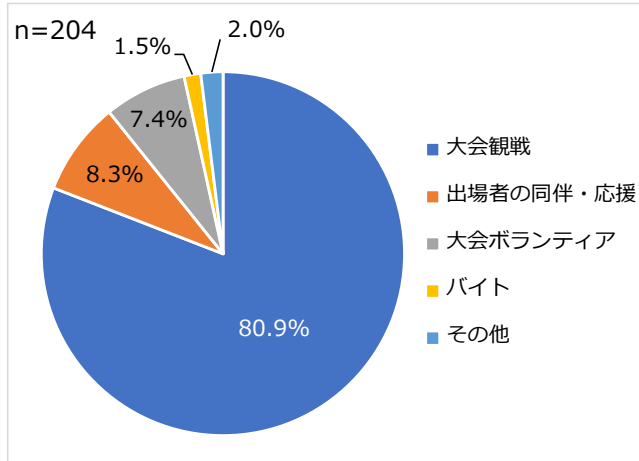
(出所)写真は全てりゅうぎん総合研究所撮影

6. 参考資料

(1) 県内居住者のアンケート結果

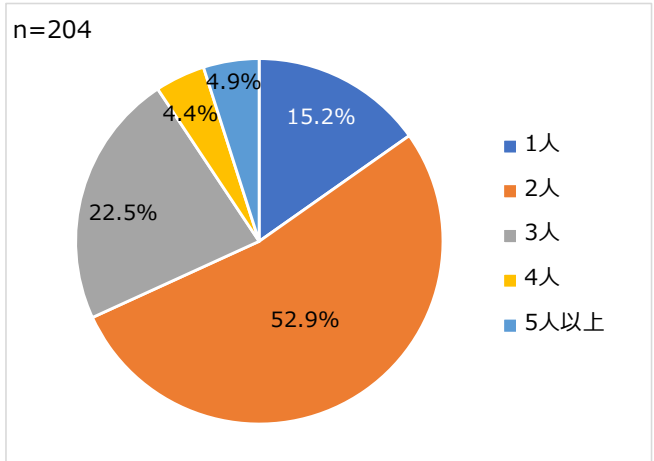
①来場目的

・「大会観戦」が8割超となった。



②来場人数 (本人含む)

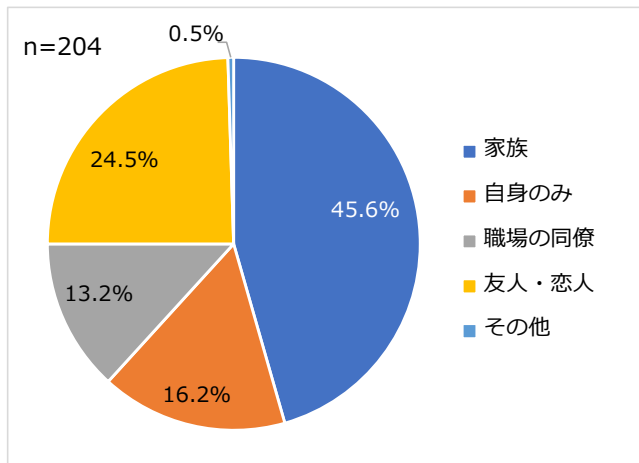
・「2人」が52.9%と半数を超えた。



(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

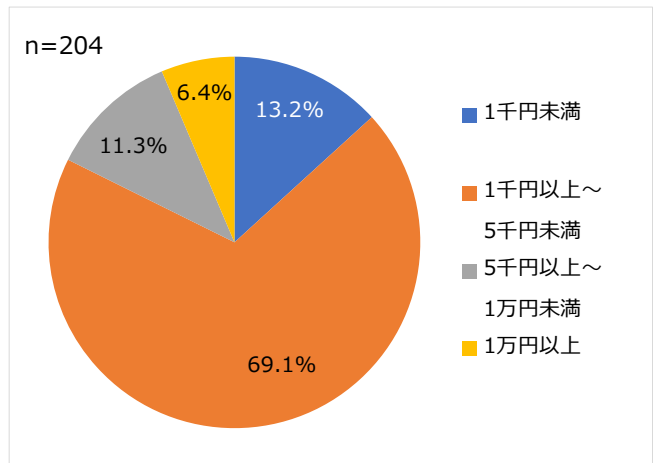
③同伴者について

・「家族」が45.6%と最多となった。



④大会会場内での消費(飲食・物販購入等)

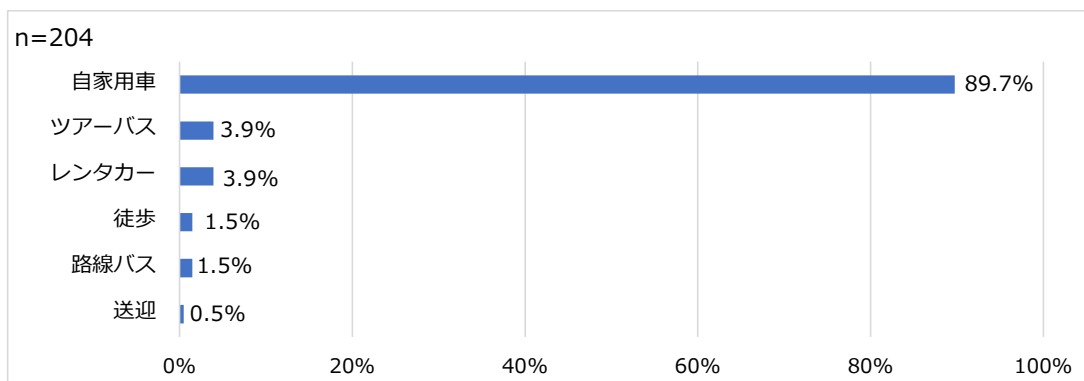
・「1千円以上5千円未満」が約7割と最多となった。



(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

⑤会場までの移動手段(複数回答) ※会場ゲートまでの無料バスでの移動を除く

・「自家用車」が約9割を占めた。



(出所)OCVB「スポーツ大会参加にかかる実態調査」の集計結果をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

(2) 経済効果を求める式（投入モデル）

$$\Delta X_1 = \{I - (I - M)A\}^{-1} (I - M) \Delta F$$

$$\Delta X_2 = \{I - (I - M)A\}^{-1} (I - M) c k w \Delta X_1$$

$$\Delta X = \Delta X_1 + \Delta X_2$$

ΔX_1 : 生産誘発額（直接効果 + 1 次間接波及効果）

ΔX_2 : 生産誘発額（2 次間接波及効果）

ΔX : 経済波及効果（直接効果 + 1 次間接波及効果 + 2 次間接波及効果）

I : 単位行列

A : 投入行列係数

M : 移輸入係数

ΔF : 最終需要増加額（生産額）

c : 民間消費支出構成比

k : 消費転換係数

w : 雇用者所得率